

英語英文学科専門科目（令和5年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放				
英語共通基礎科目（英語コミュニケーション）	20010	20011	基礎英語表現Ⅰ	②	30	1	前期	北山 長貴 阿部 隆夫 石田 陽子 小林 亜希	○	(英会話と作文) プレイスメント・テストによりクラス分け  ※ただし、教職課程受講者は指定のクラスを受講すること。					
	20010	20012	〃												
	20010	20013	〃												
	20010	20014	〃												
	20020	20021	基礎英語表現Ⅱ	②	30	1	後期	阿部 隆夫 ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ 松井 真人 渡邊真由美							
	20020	20022	〃												
	20020	20023	〃												
	20020	20024	〃												
			発展英語表現Ⅰ	2	30	2	前期	ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ							
			〃												
			発展英語表現Ⅱ	2	30	2	後期	ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ							
			〃												
	20110	20111	英会話Ⅰ（火曜Ⅰ限）	②	30	1	前期	ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ			3クラス				
	20110	20112	〃（火曜Ⅳ限）												
	20110	20113	〃（木曜Ⅴ限）												
	20120	20121	英会話Ⅱ（月曜Ⅲ限）	②	30	1	後期	ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ			3クラス				
	20120	20122	〃（火曜Ⅳ限）												
	20120	20123	〃（金曜Ⅰ限）												
20210		リーディングⅠ	2 } ④	30	1・2	前期	渡邊真由美								
20220		リーディングⅡ		30	1・2	前期	太田 裕子								
20230		リーディングⅢ		30	1・2	後期	三枝 和彦								
20240		リーディングⅣ		30	1・2	後期	松井 真人								
20310		ライティングⅠ	2	30	1	前期	三枝 和彦								
		ライティングⅡ	2	30	2	前期	三枝 和彦								
20410		リスニングⅠ	2 } ④	30	1	後期	阿部 隆夫								
		リスニングⅡ		30	2	後期	太田 裕子								
20461		TOEICリスニングⅠ		30	1	前期	北山 長貴								
		TOEICリスニングⅡ		30	2	前期	松井 真人								
20510		英文法Ⅰ	2 } ②	30	1・2	前期	松井 真人	○							
20520		英文法Ⅱ		30	1・2	後期	阿部 隆夫								
20610		時事英語	2	30	1・2	前期	渡邊真由美		外国						
英語文学科目	20710		イギリス文学史	2 } ④	30	1・2	前期	小林 亜希	○	後期開講（2～3月）  ※注意1 第1学年はA群(基礎演習)の7科目うち1科目を選択 第2学年はB群(演習)の7科目のうち1科目を選択	教養				
	20720		アメリカ文学史		30	1・2	前期	渡邊真由美			教養				
	20730		イギリス文学作品研究		30	1・2	後期	小林 亜希			教養				
	20740		アメリカ文学作品研究		30	1・2	後期	渡邊真由美							
	20750		英米児童文学作品研究		30	1・2	集中	相田 明子			教養				
	20760		英米文学講読		30	1・2	後期	小林 亜希			外国				
	20810		英米文学基礎演習Ⅰ	2 } A	30	1	後期	小林 亜希							
	20820		英米文学基礎演習Ⅱ	2 } ②	30	1	後期	渡邊真由美							
		英米文学演習Ⅰ	4 } B	60	2	通年	小林 亜希								
		英米文学演習Ⅱ	4 } ④	60	2	通年	渡邊真由美								
英語学科目	21010		英語学基礎演習Ⅰ	2 } A	30	1	後期	北山 長貴	○	第2学年はB群(演習)の7科目のうち1科目を選択					
	21020		英語学基礎演習Ⅱ		2 } ②	30	1	後期			松井 真人				
			英語学演習Ⅰ	4 } B	60	2	通年	北山 長貴							
			英語学演習Ⅱ		4 } ④	60	2	通年			松井 真人				
	21210		英語学入門Ⅰ	2 } ②	30	1・2	前期	松井 真人			○	教養			
	21220		英語学入門Ⅱ		30	1・2	後期	松井 真人					教養		
21230		英語学入門Ⅲ	30		1・2	後期	北山 長貴	教養							
		英語学講読	30		2	前期	北山 長貴								
文化とコミュニケーション科目	21320		英米文化論	2	30	1・2	前期	小林 亜希	○	[日]「外国史2」で読替  ※注意1と同じ	教養				
	21330		西洋史	2	30	1・2	前期	山崎 彰			教養				
	21340		日本文化論	2	30	1・2	後期	阿部 哲人			教養				
	21351		異文化理解	2	30	1・2	前期	今井 コレット			教養				
	21370		異文化コミュニケーション	2	30	1・2	前期	阿部 隆夫			教養				
	21380		異文化理解基礎演習	2 } A	30	1	後期	畑田 秀将			○	※注意1と同じ			
	21381		異文化コミュニケーション基礎演習		2 } ②	30	1	後期					阿部 隆夫		
	21382		英語コミュニケーション基礎演習		2 } ②	30	1	後期					ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ		
		異文化理解演習	4 } B		60	2	通年	畑田 秀将							
		異文化コミュニケーション演習	4 } ④	60	2	通年	阿部 隆夫								
		英語コミュニケーション演習		4 } ④	60	2	通年	ｶｸﾞｱｺｰﾘ, マーニ							
		卒業研究	4		2										

(注)・「○数字」は必修単位、「」○数字」は選択必修単位  
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な英語表現の復習と練習をテーマとします。</li> <li>・コロケーションや句動詞(Phrasal verb)など英語特有の表現を学びます。</li> <li>・総合的な英語運用能力を高めることを目標とします。</li> <li>・授業で扱った身近な話題について文章を書けるようにします。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、文型について</p> <p>第2回 Unit 1, 2 名詞・冠詞 (話題：アジアの国、到達目標：「行きたい国」について作文)</p> <p>第3回 Unit 3, 4 代名詞 (話題：教育、到達目標：「なぜ英語を学ぶのか？」について作文)</p> <p>第4回 Unit 5, 6 時制 (話題：アニメ、到達目標：「日本のアニメ」について作文)</p> <p>第5回 Unit 7, 8 完了形 (話題：ヨーロッパ、到達目標：「就きたい仕事」について作文)</p> <p>第6回 Unit 9, 10 助動詞 (話題：環境問題、到達目標：「化粧品」について作文)</p> <p>第7回 Unit 11, 12 関係詞 (話題：栄養問題、到達目標：「食事」について作文)</p> <p>第8回 Unit 13, 14 態 (話題：エコカー、到達目標：「移動手段」について作文)</p> <p>第9回 Unit 15, 16 不定詞 (話題：IT、到達目標：「尊敬する人」について作文)</p> <p>第10回 Unit 17, 18 分詞 (話題：英文学、到達目標：「小説家・小説」について作文)</p> <p>第11回 Unit 19, 20 動名詞 (話題：言語、到達目標：「オーストラリア」について作文)</p> <p>第12回 Unit 21, 22 形容詞 (話題：日本文学、到達目標：「日本文学」について作文)</p> <p>第13回 Unit 23, 24 比較 (話題：映画、到達目標：「映画」について作文)</p> <p>第14回 Unit 25, 26 仮定法 (話題：未来、到達目標：「自分の夢」について作文)</p> <p>第15回 前置詞 (話題：食料、到達目標：「保存食」について作文)</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画にある英語表現を含んだ様々な話題を毎回、読み・聞きます。</li> <li>・授業で扱った内容と学習した文法表現を使い毎回5～6行の短い文章を書く練習をします。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・予習ノートを作り授業の予習をしてきてください。
テキスト	“New English Master” 福井慶一郎、他著 (成美堂) 1900円 (本体価格) 【購買部のさわらびで購入できます】
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習を必ずしてきてください。ノートを1冊用意してください。</li> <li>・教室へは必ず辞書を持ってきてください。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を毎回とります。</li> <li>・レポート (20%)、筆記試験 (80%)</li> </ul>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読み取りと聞き取りを行い、目的に応じてその情報の内容を理解することができる。さらには、会話とスピーチと文章作成を統合した言語活動が行えること。CEFR-B2越を目標にする。
授業計画	<p>第1回</p> <p>授業の進め方、評価方法の説明の後、personal information (職業や年齢) の場面設定に適する英語の総合コミュニケーション言語練習 (下線部は第2回目以降も同様なため、以下省略)。また以後、異文化間コミュニケーションの事例研究 (副教材、偶数回) と進化するESL教育アプローチの練習 (奇数回) をする。</p> <p>第2回</p> <p>personal information (趣味・習慣) の場面設定に適する言語練習、および副教材事例7</p> <p>第3回</p> <p>shopping (値段と割引) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第4回</p> <p>shopping (値引き交渉) の場面設定に適する言語練習、副教材事例8</p> <p>第5回</p> <p>restaurants (メニューと注文) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第6回</p> <p>restaurants (心づけ) の場面設定に適する言語練習、副教材事例9</p> <p>第7回</p> <p>humour (ユーモアと冗談) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第8回</p> <p>humour (困った瞬間の対処) の場面設定に適する言語練習、副教材事例10</p> <p>第9回</p> <p>sports (スポーツ観戦を語る、オリンピック) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第10回</p> <p>sports (娯楽を語る) の場面設定に適する言語練習、副教材事例11</p> <p>第11回</p> <p>future (未来の計画) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第12回</p> <p>future (決めたこと、提案) の場面設定に適する言語練習、副教材事例12</p> <p>第13回</p> <p>men and women, etc. (ステレオタイプ) の場面設定に適する言語練習</p> <p>第14回</p> <p>men and women (統計と割合) の場面設定に適する言語練習、副教材事例13、暗唱スピーチ小試験</p> <p>第15回</p> <p>obligation and advice (警告と助言) の場面設定に適する言語練習、グループディスカッションの小試験</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。聞き、読み、書き、話すといった基本言語4技能の最新訓練法とそれらすべてを統合した異文化間コミュニケーションの事例を学ぶ。授業の大半は国際社会に対応した学校教育に必要な英語でのコミュニケーション方式で行い、音声や文字情報を理解するだけでなく、自らの考えを人前で話し、あるいはスピーチ原稿にまとめる作業をする。英語圏に特化した異文化間コミュニケーションの分析を通じて20世紀方式の和訳英訳レヴェルを越えた英語話者本来のコミュニケーション思考に近づく練習をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声データを使って本文を正確に音読する予習が必要です。
テキスト	(主) Christina Latham-Koenig, English Files: Upper-intermediate (Oxford UP, 2020); (副) 阿部隆夫・他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』(開拓社、2020年)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	隔回の異文化間コミュニケーションの事例提出課題50%、スピーチ小試験25%、グループディスカッション小試験25%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
石田 陽子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	文化的テーマを中心に据えた英文を読みながら、英語を学習する日本人が苦手とする時制、冠詞、正確な前置詞の選択、日本語とは異なる英文の構造などについて考え、英語のリアリティを理解し感じる。語彙や文法を復習するだけでなく、自分で英語表現することを想定しながら英文を読めるようになればよいとおもいます。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 Lesson 1 A Place in the Sun 『陽のあたる場所』で考える冠詞</p> <p>第3回 Lesson 2 What We Talk About When We Talk About Love weの用法について考える</p> <p>第4回 Lesson 3 Matasaburo the Wind Imp 「の」をどう英語に置き換えるか</p> <p>第5回 Lesson 4 The Logic of Descartes 論理的な英語を書くために</p> <p>第6回 Lesson 5 As High as the Fence Top 『怒りの葡萄』で学ぶ比較級</p> <p>第7回 Lesson 6 You've Got Mail 映画のタイトルから考える現在完了形</p> <p>第8回 Lesson 7 So Many Worlds, So Much to Do 小さな副詞"so"がもつ意味と効果的な用法</p> <p>第9回 Lesson 8 Gender-neutral Expressions 性的に中立な表現を考える</p> <p>第10回 Lesson 9 Commas and Facts コンマと事実</p> <p>第11回 Lesson 10 Since I Don't Have You since と becauseをつかいこなす</p> <p>第12回 Lesson 11 That's All He Did ひとつだけではないonlyの意味と用法</p> <p>第13回 Lesson 12 The turn in the Weather 「の」を表すinとofの違い</p> <p>第14回 Lesson 13 Find My Tokyo (Part1) 代名詞の所有格、そして冠詞の意味</p> <p>第15回 Lesson 15 Find My Tokyo (Part2) myの用法を通して英語の感覚にせまる</p>
授業概要	①予習復習についての小テスト ②本文について音読と和訳を発表してもらい、それに対する解説 ③練習問題を発表してもらい、それに対する解説
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	①Vocabulary Checkを辞書を使いながら予習しておく ②音声ダウンロードして本文を何度か聞いてみる。本文を辞書を使いながら予習する。固有名詞などわからないところがあればネットで検索するなどしてみる。何度か音読する。③練習問題を予習しておく ④調べた語彙はかならずノートに整理しておく
テキスト	Mark Petersen, English Lessons with Mark Petersen (『マーク・ピーターセンの英語のレッスン』), (鶴見書店) ISBN978-4-7553-0055-4 C1082 ¥2,000+税
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	テキストの英文は読み応えがあり難しく感じるかもしれませんが、辞書をつかって自分で読むようにしましょう。辛くても続けなければならず読めるようになります。音声を聞き音読することによって語彙も覚えるので1ヶ月もするとだいぶ読むのがラクになるはずです。辞書はかならずひきましょう。多分こういう意味であろうと予測がつくようになったら、確認の意味でやはりひきます。そして、使える表現はメモしておきます。あまりコスパのようなことは考えず、できるだけ多くの語彙をインプットするつもりで勉強してください。
評価方法	授業内小テスト (42%) + 授業での発表 (18%) + 最終試験 (40%)
参考文献	教室で指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことができる。 4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5. 以上の4技能に基づいて、複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 英文法の基礎①一品詞、五文型</p> <p>第3回 英文法の基礎②—準動詞（動名詞、不定詞、分詞形容詞、分詞構文）</p> <p>第4回 TOEICについて／英語プレゼンテーションの練習①</p> <p>第5回 1 基本文型 Shopping (L) / 2 名詞の修飾 At a Restaurant (R)</p> <p>第6回 3 文と文の接続 Employment (L) / 4 進行形と受動態 Communication (R)</p> <p>第7回 5 知覚動詞と使役動詞 Transportation (L) / 6 助動詞 Entertainment (R)</p> <p>第8回 7 その他の助動詞 と「助動詞＋完了形」 Negotiating (L) / 8 時制（現在・過去・未来） Giving a Presentation (R)</p> <p>第9回 9 現在完了形 Accommodation (L) / 10 前置詞 Public Facilities (R)</p> <p>第10回 英語プレゼンテーションの練習② / 小テスト①</p> <p>第11回 11 不定詞 Appointments (L) / 12 仮定法過去 Meetings (R)</p> <p>第12回 13 仮定法過去完了 On the Street (L) / 14 動名詞と分詞構文 Vacation (R)</p> <p>第13回 15 関係代名詞 Business Performances (L) / 16 関係副詞 Handling Customer Complaints (R)</p> <p>第14回 17 比較 Environment (L) / 18 名詞と冠詞 Housing (R)</p> <p>第15回 19 数と量 Advertising (L) / 20 強調構文と倒置 At a Factory (R) ※小テスト②</p>
授業概要	<p>①教科書の問題を解くことによって、基本的な語彙と文法を習得し、リーディングの基礎を涵養します。</p> <p>②毎時間、担当者を決めて簡略なプレゼンテーションを英語で作成し、発表してもらいます。その後、担当者と受講者の間で簡単な質疑応答を英語で行います。</p> <p>③教科書の問題を利用してリスニングの練習をします。</p> <p>④教科書を利用して資格試験TOEICに関する基礎的な知識を身に着けます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・教科書の問題を予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語は予め辞書で調べておくこと。
テキスト	Noboru Matsuoka/Kazuo Sobajima 『START WITH GTAMMAR REVIEW FOR THE TOEIC L&R TEST/文法復習型TOEIC L&R Test対策』（松柏社）2100円＋税 大学内の購買部で購入できます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>・辞書を引き、丁寧に予習してください。 ・適宜課題を出しますので、提出してください。</p> <p>・質問はリアクション・ペーパーでも対応しますが、個別に質問したいときはkobayashi-a@yone.ac.jpまで問い合わせてください。</p> <p>・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「基礎英語表現 I（小林）」に参加してください。</p>
評価方法	授業での発表・課題（50%）、小テスト（50%） 授業の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考資料（ハンドアウト）を適宜配布します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な話題について目的、場面、状況に応じて話したり書いたりすることができ、言語活動の複数の領域を統合した活動を行うこと、CEFR-B2以上を目標にする
授業計画	<p>第1回 Starting conversations 天候の会話、情報を聞き出す（コミュニケーション、以下同様）</p> <p>第2回 Starting conversations 会話の継続（のコミュニケーション、以下同様）</p> <p>第3回 If … (subjunctives) 叙想法の表現、可能性の表現</p> <p>第4回 If … (subjunctives) 結果を述べる</p> <p>第5回 Health 健康に関する会話、健康のためのアドバイス</p> <p>第6回 Health 体の部位、治療法</p> <p>第7回 People 関係代名詞、服装を描写する</p> <p>第8回 People 推量の助動詞、仕事、役割を語る</p> <p>第9回 Changes 過去をさかのぼって語る、勤続〇十年を語る</p> <p>第10回 Changes 会社の中の事務機器の変化、生活の変遷</p> <p>第11回 On holiday 動詞の-ing形と-ed形の使い分け、休暇について語る</p> <p>第12回 On holiday 不定代名詞や動詞の原形を使う表現、謝罪、ホテルでの問題処理</p> <p>第13回 Stories 過去完了、物語の語り聞かせ</p> <p>第14回 Stories 過去時制と過去完了の区別、逸話を語る</p> <p>第15回 The news 受動態 新聞の見出し、ニュースのヘッドラインの話し方</p>
授業概要	日常に不可欠な英語表現を実生活の場面設定の中で学ぶ。言語習得の最新訓練法と異文化間コミュニケーション事例を学ぶ。状況を軸にした会話応用練習で総合コミュニケーション能力を向上させる。各回の初めに文字を使わない外国語指導方法の実践例や、社会言語学に基づいたコミュニケーション事例分析を紹介する
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声データを使って本文を正確に音読する練習が必要です。
テキスト	(主) Christina Latham-Koenig, English Files: Upper-intermediate (Oxford UP, 2020); (副) 阿部隆夫・他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2020年）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各自の予習時に理解できなかった箇所に関しては日本語で最初に説明を受ける。その上で、平易な英語表現での指導の下、各練習にのぞむ。
評価方法	平常の発表課題（30%）、提出課題（50%）と試験（20%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
タヴァコーリ，マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	体内時計や脳に効く食事、危険なSNS 投稿や歩きスマホ、ボランティア活動の魅力など、身近な話題をもとに、英語で読み、聞き、発信する力を養います。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1? Were You Texting While Walking ?頻度を表す副詞と数量を表す表現/?パラグラフの構造①</p> <p>第3回 Unit 2? Do You Work Part-time? 動詞+to不定詞 (to do) /動名詞 (-ing) /パラグラフの構造② 支持文</p> <p>第4回 Unit 3? He Has a Great Smile, and He' s Rich! ?見た目や性格を表す形容詞/パラグラフの構造③ 結論文</p> <p>第5回 Unit 4? Did You Enjoy Playing Basketball? ?be動詞・一般動詞の過去形/2つの語・句・節をつなぐ接続詞 (and/but)</p> <p>第6回 Unit 5? Manners: Be a Good Guest! ?現在進行形と過去進行形 (be -ing) /文の構成：主語と動詞、形式主語</p> <p>第7回 Unit 6? Call Me When You Get There ?命令形/2つの事柄を並べて説明する (one is ~, the other is ~)</p> <p>第8回 Unit 7? Dogs Are So Much Better ?比較級と最上級/文頭で内容を展開する副詞 (Therefore/However)</p> <p>第9回 Unit 8? You Could Have Pool Parties! ?存在や所有を表す表現 (There is/are, has/have) /理由と結果をつなぐ接続詞 (because/so)</p> <p>第10回 Unit 9? We Are Going on a Cruise! ?未来を表す表現 (be going to / will / be -ing) /コンマ (, ) の使い方①/大文字の使い方</p> <p>第11回 Unit 10? Have You Ever Volunteered Before? ?現在完了形の4つの用法/コンマ (, ) の使い方②</p> <p>第12回 Unit 11? Think Before You Post! ?提案や義務を表す助動詞 (had better/should, must/have to) /例を挙げて主題を展開する (for example)</p> <p>第13回 Unit 12? You Lied to Her! ?Wh疑問文と間接疑問文/Eメールの構成</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	インプットからアウトプットの流れで授業を進めます。リスニングやリーディングを通したインプットから、アウトプットとして音声に続いてのリピーティングや会話のペアワークなどの声に出させるタスクやUnitのテーマに沿ったライティングに取り組みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ライティングの仕上げをする。また、自分のライティングを流暢に読めるように練習する。
テキスト	English Beams: Essential Skills for Talking and Writing 大学生のための発信型総合英語演習 金星堂 表谷純子 / 川崎真理子 / Ayed Hasian / Paul Aaloe 著 978-4-7647-4018-1
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	辞書を持ってきましょう。(サイレントモードに設定の上、スマホの辞書可。)
評価方法	授業参加50点 (アクティビティへの参加、授業回数の2/3以上の出席、欠席1回6点減点)、提出物 (50点)
参考文献	
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	身近な事柄について平易な英語で話したり、書いたりすることができること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Overcoming Disasters 英語の主語の種類	
	第3回	Going Digital There is 構文	
	第4回	Judging Others 動詞（1）自動詞と他動詞	
	第5回	Ping-pong Hero 動詞（2）文型	
	第6回	Marry Me, Robot look, appear, seem, smell, taste, feel	
	第7回	Remember Not to Forget! 動詞＋動名詞／動詞＋to不定詞	
	第8回	Alienated on Earth 形容詞の文型	
	第9回	Daylight Savings 疑問文とその語順	
	第10回	Society Service 助動詞（1）	
	第11回	The First Lady 助動詞（2）	
	第12回	Homesick for Earth 進行形／状態動詞と動作動詞	
	第13回	'Anime' is English! 完了形	
	第14回	各自が選んだテーマについて英語でスピーチをする。（第1グループ）	
	第15回	各自が選んだテーマについて英語でスピーチをする。（第2グループ）	
授業概要	毎回、受講者は身近な事柄について英語で30秒程度のスピーチを行い、担当教員からの質問に英語で答える。その後、テキストに沿って、英文読解、リスニング、英文法、英作文の学習を行う。最後の2回の授業では英語で2分から3分程度のスピーチを行い、話した内容を英文エッセイにまとめて後日提出する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、英語スピーチの内容をよく考えておくこと。また、次の授業で学習する範囲の練習問題を解き、英作文を書いてみること。		
テキスト	奥田隆一・Anthony Allan（著）『Writing Points!: Basic Grammar for Better Writing』金星堂 2,090円（税込） ISBN: 978-4-7647-3939-0		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業でスピーチをする時には、難しい英語を使う必要はない。易しい英語でよいので、語法や文法に気をつけて、しっかり準備して話してほしい。受講生の英作文はできるだけ丁寧に添削したい。		
評価方法	授業への参加度50%、最終スピーチ20%、英文エッセイ30%		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	パラグラフの書式、構造を理解できる。 英語の論理展開を理解し、その考えにしたがって英文を書くことができる。 文法を正しく理解できる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法などの説明</p> <p>第2回 Unit 1 パラグラフの構造について 文の構造について</p> <p>第3回 Unit 2 主題文 現在時制</p> <p>第4回 Unit 3 支持文 過去時制</p> <p>第5回 Unit 4 まとめ文 現在完了形</p> <p>第6回 Unit 5 リストを作る 与えられたトピックにしたがって英文を作成する。 現在進行形</p> <p>第7回 Unit 6 計画をたてる 旅行の計画をたてる 助動詞（1）</p> <p>第8回 Unit 7 分類 分類 順序をつけた文章をかく 助動詞（2）</p> <p>第9回 Unit 8 二項対立 古い—新しいなど二項対立する概念を英文にする 助動詞（3）</p> <p>第10回 クリスマス・カードを作る 誰かに向けてクリスマス・カードを作成する。</p> <p>第11回 Unit 9 原因と結果 等位接続詞について</p> <p>第12回 Unit 11 プレゼンテーション（1） 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ（イントロ） 名詞・形容詞</p> <p>第13回 Unit 12 プレゼンテーション（2） 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ（展開） 副詞</p> <p>第14回 Unit 13 プレゼンテーション（3） 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ（結論） 命令文</p> <p>第15回 プレゼンテーションをしてみよう！ 各自プレゼンを行う。</p>
授業概要	テキストを使用して、パラグラフとは何か、から始まって、さまざまなトピックの英文を書くようにして行きます。また、文法の確認も行っていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中に予習箇所を指示します。必ず予習を行って授業に出席すること。 課題を行う。
テキスト	Lennid Yoffe, Atsushi Chiba 他編著 『Message Delivered [Lower Intermediate]』 『パターンで学ぶパラグラフ・ライティングとプレゼンテーション入門』 南雲堂、2,200円+税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	辞書を必ず持参すること。予習をして来ること。
評価方法	毎回、エクササイズを提出してもらいます。（50%）クリスマス・カードの作成（1回）と、授業内でのプレゼンテーション（1回）。（50%）
参考文献	英和辞書（紙でも電子辞書でも可）
備考	状況によっては、遠隔授業の場合あり。授業の内容が変更になることもありえます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn words and expressions to convey their feelings and ideas clearly and effectively in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Body Idioms</p> <p>第3回 Values Reading</p> <p>第4回 My Favorite Book</p> <p>第5回 My Favorite Artist</p> <p>第6回 A Trip to My Hometown</p> <p>第7回 A Trip Abroad</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Fortunetelling</p> <p>第10回 Haiku Party</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 English Idioms</p> <p>第13回 Songs and Games</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Using printed articles, the teacher will teach students expressions for discussing various topics. Students will then be divided into small groups to discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Preparation for the class.
テキスト	There is no textbook for this class. The teacher will prepare copies of material for some classes. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	This class will be challenging and fun.
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is for students to learn how to relate stories about their life and their experiences clearly in English.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Funny Stories</p> <p>第3回 Scary Stories</p> <p>第4回 Travel Stories</p> <p>第5回 Sports Stories</p> <p>第6回 Romantic Stories</p> <p>第7回 Game</p> <p>第8回 Animal Stories</p> <p>第9回 Embarrassing Stories</p> <p>第10回 Audiovisual</p> <p>第11回 Reading Discussion</p> <p>第12回 Future Stories</p> <p>第13回 A Day in the Life</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	Students will write a daily journal in English. Common mistakes from journals will be corrected each week. Students will be asked to prepare a story to present each week. There will also be dictation practice.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Journal
テキスト	There is no textbook for this class. Students will need 2 notebooks, for notes and English journal. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	This class is very challenging, but very effective for improving English ability.
評価方法	25% Class Participation. 25% Final Interview Exam. 50% English Journal.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English. Only English will be used when teaching this class. The contents of this class are different from English Conversation I.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the Course</p> <p>第2回 Describing `People</p> <p>第3回 Family</p> <p>第4回 Comparison with Adjectives</p> <p>第5回 Numbers</p> <p>第6回 Shopping</p> <p>第7回 Time</p> <p>第8回 Audiovisual</p> <p>第9回 Music</p> <p>第10回 Fast Food</p> <p>第11回 American Money</p> <p>第12回 Health</p> <p>第13回 Hobbies and Free Time</p> <p>第14回 Review</p> <p>第15回 Test Preparation</p>
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions the students may have.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Jornal
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don't be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、英語で書かれた小説を読みながら、英文を正しく読める力を養っていくことを目指します。英文の構造が理解できること、英単語の適切な意味を調べること、英文を正しく日本語にできるようにすることが目標です。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、予習の仕方、評価方法についての説明を行う。「はしがき」を読む。</p> <p>第2回 "The Last Leaf" (1) pp. 1-2 小説を読む。supposeの使い方について</p> <p>第3回 "The Last Leaf" (2) pp. 3-4 自動詞と他動詞の使い分け。形容詞の叙述用法について。</p> <p>第4回 "The Last Leaf" (3) pp. 5-7 大過去について</p> <p>第5回 "The Last Leaf" (4) pp. 8-9 shallの使い方</p> <p>第6回 "The Last Leaf" (5) pp. 10-12 分詞構文について</p> <p>第7回 "The Gift of the Magi" (1) pp. 20-22 受身形について</p> <p>第8回 "The Gift of the Magi" (2) pp. 22-24 仮定法について</p> <p>第9回 "The Gift of the Magi" (3) pp. 24-26 "mind," "let's"の使い方</p> <p>第10回 "The Gift of the Magi" (4) pp. 27-29 効果的な結末について</p> <p>第11回 "Witches' Loaves" (1) pp. 53-54 小説の始まりについて 登場人物の描き方</p> <p>第12回 "Witches' Loaves" (2) pp. 55-56 感嘆文について</p> <p>第13回 "Witches' Loaves" (3) pp. 57-58 物語りの展開を考える</p> <p>第14回 "Witches' Loaves" (4) p. 59 結末の在り方について</p> <p>第15回 これまでのまとめ 英語小説を読む。 これまでのまとめと感想</p>
授業概要	20世紀初頭に登場し、わずかな数年の作家活動のなかで主にニューヨークの労働者たちの日常を描き出したO. Henryの掌編小説を読んでいきます。当時の社会状況の解説、文法の説明などを行い、出席しているみなさんに訳を發表してもらいます。全十五回で3回から5回訳を發表してもらいます。適宜、理解度をはかるために、テキストの中で使われている構文を利用した簡単な英作文や日本語訳を提出してもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回に予習してくる箇所を指定します。その部分について、単語の意味を調べ、授業中に日本語訳を發表できるように英文を読んでください。
テキスト	O. Henry, _Seven Short Stories of O. Henry_ 『O.ヘンリー短編集』朝日出版社。1,068円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英文を読めるようになることと同時に、物語の面白さを味わってください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加（授業中にスマートフォン等、授業に関係ないものを使用しないこと、授業に特別な事情を除いて毎回参加すること、予習をしてあること、等で評価します）30%</li> <li>・期末試験 70%（予定）レポート等に変更の可能性あり。</li> <li>・全授業回数の三分の二以上の出席を求めます。</li> </ul>
参考文献	英和辞典（紙でも電子辞書でも構いません）。授業には必ず持参してください。
備考	・遠隔授業の際には、毎回課題の提出を求めます（出席の代わりとなる）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語学概論として、英語に関する様々な話題を専門用語を避けて平易な英語で書かれた教科書を読みます。語彙力の養成、読解力の向上に取り組みます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 PartC： p 10, p14 Chap. 4 速読+Exercise A&amp;B</p> <p>第3回 PartC： p 18, p22 Chap. 4 和訳発表+精読</p> <p>第4回 PartC： p 26, p30 Chap. 5 速読+Exercise A&amp;B</p> <p>第5回 PartC： p 34, p38 Chap. 5 和訳発表+精読</p> <p>第6回 PartC： p 42, p46 Chap. 7 速読+Exercise A&amp;B</p> <p>第7回 PartC： p 50, p54 Chap. 7 和訳発表+精読</p> <p>第8回 PartC： p 58, p62 Chap. 18 速読+Exercise A&amp;B</p> <p>第9回 PartC： p 66, p70 Chap. 18 和訳発表+精読</p> <p>第10回 PartC： p 74, p78 Chap. 23 速読+Exercise A&amp;B</p> <p>第11回 PartC： p 82, p86 Chap. 23 和訳発表+精読</p> <p>第12回 PartC： p 90, p94, p 98, p102</p> <p>第13回 PartC： p 106, p110</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	演習形式で授業を行います。26章から5章を選んで読む予定です。和訳担当を決めて発表していただきます。訳すところの英文を読んでから、和訳をしてください。クラス全体に聞こえるようにゆっくりと大きな声で発表しましょう。発表者は和訳を紙に書いて用意してきましょう。そして、PartCの整序英作文を1回2章分ずつ取り組む予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	英語についての26章 Twenty-six Short Essays on English (2013) 英宝社 定価1,995円 Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Simuzu ISBN978-4-269-14018-9
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習として大まかな情報を読み取るだけなら、速読でいいのですが、読解に必要な語彙力養成のために単語の意味調べをするようにしましょう。和訳担当者以外の人にも内容に関する質問や和訳をお願いすることがあります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。授業参加（アクティビティへの参加など20点）、提出物（30点）、学期末試験（50点）
参考文献	音読MAX (2012) 南雲堂 1,400円+税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業は、現代イギリスについて英語で書かれた文章の読解を通して、英文を正確に読むために必要な語彙力と読解力の獲得を目標とします。 具体的な到達目標は次の通り。 ①授業で扱う語彙の意味を言うことができる。 ②授業で扱う英文を正確に読むことができる。
授業計画	<p>第1回            イントロダクション</p> <p>第2回            Chapter 1 Class</p> <p>第3回            Chapter 2 Education</p> <p>第4回            Chapter 3 Gender</p> <p>第5回            Chapter 4 Health and Age</p> <p>第6回            Chapter 5 Crime and Punishment</p> <p>第7回            Chapter 6 Drugs</p> <p>第8回            中間試験と振り返り</p> <p>第9回            Chapter 7 Sports</p> <p>第10回           Chapter 8 Religion</p> <p>第11回           Chapter 9 The Monarchy</p> <p>第12回           Chapter 11 The Environment</p> <p>第13回           Chapter 12 Immigration and Race</p> <p>第14回           Chapter 13 Scotland</p> <p>第15回           期末試験と振り返り</p>
授業概要	授業計画に沿って、教科書を進めていきます。各chapterでは、内容理解の問題に取り組みながら英文を読んでいます。
実務経験及び授業の内容	該当しない
時間外学習	必ず予習をしたうえで授業に臨みましょう。英文を精読し、分からない語彙表現は調べたうえで問題に取り組むこと。また、授業後は復習をして知識の定着を図ることが大切です。
テキスト	Simon Rosati 『現代イギリスの暮らしと文化』【改訂版】英宝社（¥2000+税） ISBN: 9784269150249
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	イギリスの文化や社会、歴史についての理解を深めながら英語力を伸ばしましょう。
評価方法	中間試験（50%）、期末試験（50%）
参考文献	
備考	授業には必ず辞書を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	文法や語法に注意を払いながら英文を精読することを通して、英語読解力を身につけること。国際共通語となった英語の多様性について理解すること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 What Is English as an International Language?</p> <p>第3回 Why Is English So Important?</p> <p>第4回 McDonald's Stores in India Do Not Serve Beef Burgers!</p> <p>第5回 World Englishes</p> <p>第6回 More Non-Native Speakers than Native Speakers</p> <p>第7回 English as an Asian Language</p> <p>第8回 "The Official Language of Singapore Is Singlish, Sir."</p> <p>第9回 English in India</p> <p>第10回 Expanding English as a Multicultural Language</p> <p>第11回 English as a Multicultural Language and Diversity Management</p> <p>第12回 "What's Your Point?" "Why Don't You Hear Me Out?"</p> <p>第13回 That Restaurant Is Very Delicious!</p> <p>第14回 English as a Japanese Language for International Communication</p> <p>第15回 Can You or Can't You Read French, After All?</p>
授業概要	英語の国際化、多様化をテーマとした英文エッセイを精読する。授業の進め方としては、毎回、語句の学習をした後、受講生が英文を和訳し、担当教員が語学的な面と内容面について解説をする。内容理解を確認するための設問にも取り組む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習として、次の授業で学習する範囲の英文を和訳し、語句についての設問と内容理解を確認するための設問も解いておくこと。その際には、わからない語句の意味を、辞書を引いて調べておくこと。
テキスト	本名信行・竹下裕子・James D' Angelo（著）『Understanding English across Cultures』金星堂 2,090円（税込） ISBN: 978-4-7647-3942-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	必ず予習をしてから授業に参加すること。授業ではできるだけ丁寧に解説することを心掛けるが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、英作文に必要な語彙表現や文法事項に関する理解を深め、英作文の基礎的な力を固めることを目標とします。併せて英語パラグラフの基本構造について学んでいきます。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 英語の主語の種類 / Unit 2 There is 構文</p> <p>第3回 Unit 3 動詞 (1) 自動詞と他動詞 / Unit 4 動詞 (2) 文型</p> <p>第4回 Unit 5 知覚動詞等 / Unit 6 動名詞とto不定詞</p> <p>第5回 Unit 7 形容詞の文型 / Unit 8 疑問文とその語順</p> <p>第6回 Unit 9 助動詞 (1) / Unit 10 助動詞 (2)</p> <p>第7回 Unit 11 進行形 / Unit 12 完了形</p> <p>第8回 振り返りと中間試験</p> <p>第9回 Unit 13 形容詞の用法 / Unit 14 副詞と副詞句</p> <p>第10回 Unit 15 名詞 / Unit 16 前置詞の使い分け</p> <p>第11回 Unit 17 現在分詞と過去分詞 / Unit 18 限定詞</p> <p>第12回 Unit 19 受け身 / Unit 20 命令文</p> <p>第13回 Unit 21 接続詞 / Unit 22 関係詞</p> <p>第14回 Unit 23 比較 / Unit 24 仮定法</p> <p>第15回 振り返りと期末試験</p>
授業概要	教科書の内容に沿って、語彙表現や文法事項、パラグラフの基本構造などを学んでいきます。授業中は予習事項の解答解説と練習問題の演習をおこないます。必ず予習をしたうえで授業に臨んでください。また、毎回の授業で小テストを行います。
実務経験及び授業の内容	該当しない
時間外学習	授業で学習した事項について復習して知識の定着を図り、小テストに備えましょう。また、次回の授業範囲を予習しましょう。
テキスト	奥田隆一, Anthony Allan 『文法を活かす英文ライティング入門』金星堂 (¥1900+税) ISBN: 9784764739390
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	小テスト (30%)、中間試験 (35%)、期末試験 (35%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では英文パラグラフの基本構造を理解し、1～数パラグラフで構成される文章を作成できるようになることを目標とします。併せて、ライティングに必要な語彙表現や文法事項の復習も行います。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Things Happen for a Reason</p> <p>第3回 Unit 2 Same or Different?</p> <p>第4回 Unit 3 Here's What I Think</p> <p>第5回 Unit 4 Sorting Things Out</p> <p>第6回 Unit 5 Step by Step</p> <p>第7回 Unit 6 Feeling Through Your Senses</p> <p>第8回 Unit 7 Don't You Agree?</p> <p>第9回 Unit 8 You Be the Judge</p> <p>第10回 Unit 9 Two Sides to Every Story</p> <p>第11回 Unit 10 A Bit of Advice</p> <p>第12回 Unit 11 Please Don't Misunderstand</p> <p>第13回 Unit 12 Revisiting the Past</p> <p>第14回 Unit 13 Seeking Solutions</p> <p>第15回 Unit 14 Let Me Entertain You</p>
授業概要	教科書の内容に沿って、語彙表現や文法事項、パラグラフの基本構造などを学んでいきます。授業中は予習事項の解説、練習問題の演習、ライティングの実践を行います。必ず予習をしたうえで授業に臨んでください。前回の復習としての小テストが授業ごとに、英作文の提出課題が数回に一度課されます。
実務経験及び授業の内容	該当しない
時間外学習	授業で学習した事項について復習して知識の定着を図り、小テストに備えましょう。また、次回の授業範囲を予習しましょう。提出課題には期日までに取り組み提出してください。
テキスト	Robert Hickling, 八島純『Jigsaw』センゲージラーニング（¥2150+税） ISBN: 9784863123694
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	授業ごと小テスト（40%）、英作文の提出課題（60%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：リスニング I (20410)

授業コード：20410

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	就職や留学の際に必須となるTOEIC (pt. 4) とTOEFLの聞き取りの得点を上げる。北アメリカの英語とヨーロッパの英語との両方が聞こえるようにすること
授業計画	<p>第1回 TOEFL 問題1、Nos. 1-5 (以下、T 1 -5) 願書に関する教授と学生の会話、 Headway, Chap.1 (以下、H1) 大学のオリエンテーション</p> <p>第2回 T 6-10 生物の試験勉強、 H1 履修登録の問い合わせ</p> <p>第3回 T 11-16 水資源の講義、 H2演習の導入授業</p> <p>第4回 T 17-22 哲学の講義、 H2 アシスタント授業tutorialの会話</p> <p>第5回 T 23-28 植物学の講義 H3 環境学の授業</p> <p>第6回 T 29-34 経営管理学の講義、 H3 地球環境維持の協会</p> <p>第7回 TOEFL問題2、 T 1-5 課題に関する教授との会話、 H4 建築学の講演</p> <p>第8回 T 6-11 人類学の講義、 H4建築学の講義</p> <p>第9回 T 12-16 生物学の講義、 H5 学習方法の授業</p> <p>第10回 T 17-21 職員への問い合わせ、 H5 複合知性の授業</p> <p>第11回 T 22-27 天文学の講義、 H6 技術革新のスピーチ</p> <p>第12回 T 28-33 芸術学の講義、 H6 技術に関する電話の会話</p> <p>第13回 TOEFL 問題3、 T 1-5 教室に関する問い合わせ、 H7 言語と文化の議論</p> <p>第14回 T 6-11 ハチドリの講義、 H7 プリゼンテーションの仕方</p> <p>第15回 T12-17 映画製作の講義、 H8 地理学のプレゼンテーション</p>
授業概要	コンピュータ端末受験TOEFL聞き取りセクションを紹介し、準備、訓練方法を学ぶ。またUKを基本とした英語の聞き取りになれることで、相対的に北アメリカ大陸の英語をも聞き取れるように練習する。同時に両方の発音の違いを学ばせる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回分の予習範囲の答え合わせと音読練習を済ませてから、授業に臨んでほしい。
テキスト	The Official Guide to the TOEFL Test 5th Edition (McGraw Hill, 2018), Emma and Gary Pathare, Headway Academic Skills: Listening, speaking and Study Skills (Oxford UP, 2011)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	試験100%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	単語・語句レベルのディクテーションができるようになる。やや長めのダイアログやパッセージに慣れる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション Self - Introduction	
	第2回	Chap1 Food and Global Culture Section 1	
	第3回	Chap1 Food and Global Culture Section 2	
	第4回	Chap2 Global Wealth and Poverty Section1	
	第5回	Chap2 Global Wealth and Poverty Section2	
	第6回	Chap3 Ageing Society Section 1	
	第7回	Chap3 Ageing Society Section2	
	第8回	Chap7 Gender Section 1	
	第9回	Chap7 Gender Section2	
	第10回	Chap9 Environmental Issues Section 1	
	第11回	Chap9 Environmental Issues Section2	
	第12回	Chap11 Energy Problems Section 1	
	第13回	Chap11 Energy Problems Section2	
	第14回	習熟度の確認	
	第15回	習熟度の確認	
授業概要	環境、教育、犯罪など現在のグローバル社会を取り巻く様々な社会問題を取り上げたリスニング教材で、トピックに関するダイアログとパッセージの聞き取りに取り組む。単語や語句レベルのディクテーション、音読に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の興味関心に沿った洋楽や英語の動画などに日常的に触れましょう。		
テキスト	リスニングで学ぶ現代の社会事情：Social Issues in a Contemporary World 成美堂 杉森 直樹 / 杉森 幹彦 / Harry Dauer / ヒルド 麻美 / 吉田 信介 著		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	グループ・ペアワークでのロールプレイでは会話しているように聞こえるように感情を込めましょう。		
評価方法	授業で取り組んだところの内容理解に関するリスニング試験を行います。 グループ・ペアワークへの参加も評価の対象とします。 授業参加50点（2/3以上の出席、欠席は6点減点、グループ・ペアワークへの参加）、学期末試験（50点）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			

授業のテーマ及び到達目標	1. TOEIC テストの出題形式の理解と、英語リスニング能力の向上をテーマとします。 2. 英語を聞き取るために必要な英語の音声的特徴の理解を目標とします。
授業計画	<p>第1回 Unit 1 Transportation and Information</p> <p>第2回 Unit 2 Instructions and Explanation</p> <p>第3回 Unit 3 Eating and Drinking</p> <p>第4回 Unit 4 Business Scene</p> <p>第5回 English Vowels and Consonants (英語の母音と子音について)</p> <p>第6回 Strong and Weak forms of English words (英語の発音、音節と強勢について)</p> <p>第7回 Contractions and Elisions (英語の発音、短縮形と省略形・同化について)</p> <p>第8回 Unit 5 Communication</p> <p>第9回 Unit 6 Socializing</p> <p>第10回 Unit 7 Invitation</p> <p>第11回 Unit 8 Unit Medical Treatment and Insurance</p> <p>第12回 Unit 9 Cultural and Entertainment</p> <p>第13回 Unit 10 Shopping</p> <p>第14回 Unit 11 Sports and Exercise</p> <p>第15回 Unit 12 Trouble and Claims</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEICテストのリスニング・セクションに対応できるリスニング練習を行います。</li> <li>テキストは1回の授業で1課進みます。</li> <li>授業ではリスニングとリーディングの各セクションについての TOEIC の出題傾向を紹介します。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・無料ストーリーミングがありますので、テキストの内容の予習に活用してください。
テキスト	『TOEIC L&R テストへのファーストステップー改訂新版ー』成美堂 2000円 (本体価格) ISBN 978-4-7919-3092-1【購買部のさわりびで購入できます】
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室に辞書を持ってきてください。</li> <li>毎回の授業の最後にまとめのリスニング小テストを行います。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト (50%)、筆記試験 (50%)</li> <li>出席は「出席管理システム」を利用しますので、使用方法を事前に確認しておいてください。</li> </ul>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	TOEIC Listening & Reading Testのリスニングセクションと同じ形式の問題を解くことによってTOEICの問題に慣れながら、英語リスニング力を高めること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Travel</p> <p>第3回 In the Office</p> <p>第4回 Cooking</p> <p>第5回 Recreation</p> <p>第6回 Office Life</p> <p>第7回 Travel</p> <p>第8回 Job Interview</p> <p>第9回 Leisure Time</p> <p>第10回 On the Job</p> <p>第11回 Supermarket</p> <p>第12回 At the Office</p> <p>第13回 Daily Life</p> <p>第14回 Money</p> <p>第15回 Business</p>
授業概要	毎回、リスニングをする際に注意すべきポイントを担当教員が解説した後、受講生はTOEIC形式の問題を解いていく。その後、答え合わせをしながら、担当教員が問題の解説をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	復習として、授業で学習した箇所の音声を繰り返し聴くこと。わからなかった語句の意味をよく覚えること。
テキスト	Matthew Wilson・鶴岡公幸（著）『QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 500 Listening』松柏社 1,430円（税込） ISBN: 978-4-88198-749-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業ではできるだけ詳しく問題の解説をしていきたい。受講生の皆さんは、テキストの問題を収録した音声ファイル（無料でダウンロード可能）、インターネット、ラジオ、テレビ、市販教材などを利用して、授業以外の時間にもできるだけ多くの英語を聞く努力をしてほしい。
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	本学英語英文学科で専門的な勉強する上で必要な英文法の知識を身につけること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	コトバの役割パーツ：品詞	
	第3回	英語は時間にきっちりしたコトバ：時制・進行形	
	第4回	文を作るレシピ：基本5文型	
	第5回	過去のできごとが今に影響をおよぼす：現在完了	
	第6回	現在完了の考え方は過去でも未来でも通用する：過去完了・未来完了	
	第7回	話し手の気持ちをこめる表現：法助動詞	
	第8回	現実でない「もしも」の世界を語ろう：仮定法	
	第9回	名詞を文で修飾しよう：関係節	
	第10回	場所・時・理由・方法も文で修飾できる：関係副詞	
	第11回	主語と接続詞が隠された文：分詞構文	
	第12回	話し手のモノゴトの見方を伝える道具：冠詞	
	第13回	動詞のジョーカー：不定詞	
	第14回	スルのが能動態、サレルのが受動態：受け身形	
	第15回	「させる」と「してもらう」のは微妙にちがう：使役形	
授業概要	担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をした後で、受講生は練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次の授業で学習するテキストの範囲の解説をよく読み、練習問題も解いてみる。復習として、わからなかった文法事項をよく覚えること。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法 ーリメディアル学習対応ー』朝日出版社 1,980円（税込） ISBN: 978-4-255-15479-4		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していきたい。わからない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、しっかり予習と復習をして、授業で学んだことを徹底的に覚え、英文法の知識を増やしてほしい。		
評価方法	授業への参加度25%、試験75%		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになること		
授業計画	第1回	単純現在と現在進行形、過去時制（の問題練習、以下同様） 以下主教材の予定（副教材では下記問題集を毎回1ページずつ15ページまで進む）	
	第2回	現在完了と単純過去の比較、過去完了（の問題練習、以下同様）	
	第3回	未来時制、助動詞（能力・許可・要求）	
	第4回	助動詞（可能性・命令・義務）	
	第5回	不定詞と動名詞の比較	
	第6回	受動態、動詞句	
	第7回	間接話法	
	第8回	仮定法、不可算名詞と可算名詞	
	第9回	所有詞、指示語	
	第10回	数量詞、比較級・最上級	
	第11回	同程度を示す形容詞、副詞	
	第12回	文接続の副詞、前置詞と名詞句の接続	
	第13回	前置詞句、接続語	
	第14回	文の接続、関係節	
	第15回	時、場所、理由の表現、語句の省略方法	
授業概要	中級程度の文法項目を中心に取り上げ、それを英語圏で文法を学習するように英語のままの文法用語で理解し文法の説明ができるようになる程度まで練習する。その過程で英語文法の素養を育む。各自が文法を暗記するよりも、言語認識の観点から自分の言葉で文法の仕組みを説明できるレベルを目指す。また副教材では、日本語発想の文法・語彙の違いを問題形式で習う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回二章分の小テストを行うので、事前に問題集の答えを確認したうえで授業に臨んでほしい。		
テキスト	Norman Coe, Oxford Living Grammar, Upper-Intermediate (Oxford UP, 2012), 副教材Takao Abe, Common Mistakes of English (非売品のため無料配布)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	設問と答え・解説が明快でTOEFLやTOEICにも応用できる文法項目別構成の問題集を使うので、毎回1、2単元分の予習が必要となる。		
評価方法	毎回の小テスト（40%）と期末試験（60%）で判定する。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（外国語）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：英語で書かれた時事問題を読む。時事問題に使われる言い回しに慣れ、英字新聞（_New York Times_ など）を読めるようになる。</p> <p>到達目標：1. 新聞や雑誌で使用されている英語の言い回しに慣れる。 2. パラグラフの構成を理解し、記事全体の内容を的確に理解できるようにする。 3. 時事問題に関心を持ち、その歴史的背景をふまえて理解できるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODakシヨN 授業の進め方・評価方法等の説明 柴田元幸氏のエッセイを読む</p> <p>第2回 Chap. 1 "Educational Sakoku" パラグラフの機能を考える パラグラフごとの要約</p> <p>第3回 Chap 1(2) パラグラフの機能を考える パラグラフごとの要約</p> <p>第4回 Chap. 2 "Impact of Lowering the Age of 'Adulthood'" パラグラフの構成を考える パラグラフごとの要約</p> <p>第5回 Chap. 2 (2) パラグラフの構成を考える</p> <p>第6回 Chap. 4 "Gender Equality" 各パラグラフの関係性を考える</p> <p>第7回 Chap. 4 (2) 各パラグラフの関係性を考える</p> <p>第8回 Chap. 5 "Freedom of Speech and Its Implications" パラグラフ内部の構成を考える</p> <p>第9回 Chap. 8 "Fertility Decline and Initiatives" パラグラフごとの読解</p> <p>第10回 Chap. 9 "Digitization and Public Administration" パラグラフごとの読解</p> <p>第11回 Chap. 10 "Covid Measures and National Administration" パラグラフごとの読解 自分の意見を持つ</p> <p>第12回 Chap. 12 "Financial Literacy" パラグラフごとの読解 自分の意見を持つ</p> <p>第13回 New York Timesを読もう New York Timesの記事から 自分の意見を持つ</p> <p>第14回 New York Timesを読もう New York Timesの記事から 自分の意見を発表する</p> <p>第15回 授業のまとめ 授業を概観するまとめ</p>
授業概要	現代の日本が抱えている社会問題を英語で読んでいく。毎時、予習をしてきてもらい、各パラグラフの要約や問題を解答し、提出してもらう。授業中に英文の解説を行い、英文のパラグラフ構成を理解できるようにする。扱っているトピックの事象に関心を持ち、自分なりの意見を持てるようにする。授業の後半（1-2回）に _New York Times_ を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の前に、次週に扱う課を指示します。必ず、読んできてください。わからない単語があれば辞書をひき、確認してきてください。授業中に要約・問題の解答を提出してもらいます。
テキスト	James M. Vardaman他 _Japan's Dilemmas and Solutions: 15 Topics You Need to Consider_ 『考えよう日本の論点15』 鶴見書店、2000円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	時事問題は、これまで馴染みのなかった英単語が多数出てきたり、読んだことのない内容の英文になります。しっかりと予習をして臨んでください。常に時事問題に興味をもって取り組むことが必要です。状況によっては、遠隔授業に切り替わることもあり得ます。その際はTeamsを利用します。
評価方法	予習の到達度をみるクイズ(50%)と、学期末試験(50%)。試験期間中に遠隔授業に切り替わった場合には、試験は行わず、レポート等で対応する。

参考文献	英和辞書（紙でも電子辞書でも可）。高校時代に使用していた辞書で構いません。必ず持参してください。英文の時事問題を読もうとする場合、スマートフォンの辞書では対応できないことが多いです。必ず、英和辞典を使用してください。
備考	状況によって、Teamsを作成し、そのなかにあるノートブック機能を活用して授業を進めていきます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。 2. イギリス文学で描かれている国・地域の文化・歴史について理解している。 3. 代表的なイギリス文学について理解している。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスーイギリス文学とは何か</p> <p>第2回 古英語・中英語の文学</p> <p>第3回 エドマンド・スペンサーとウィリアム・シェイクスピア</p> <p>第4回 ウィリアム・シェイクスピア：悲劇と喜劇</p> <p>第5回 清教徒革命～王政復古期の文学（1）：欽定訳聖書、ジョン・ミルトン</p> <p>第6回 清教徒革命～王政復古期の文学（2）ージョン・ダン、アレクザンダー・ポープ</p> <p>第7回 小説の誕生と成長（1）ーアフラ・ベインからデフォーまで</p> <p>第8回 小説の誕生と成長（2）ージェイン・オースティンを中心に</p> <p>第9回 ロマン主義の詩ーワーズワース、P・Bシェリー、ジョン・キーツ</p> <p>第10回 ヴィクトリア朝時代とは何か</p> <p>第11回 ヴィクトリア朝の小説（1）シャーロット・ブロンテを中心に</p> <p>第12回 ヴィクトリア朝の小説（2）ーエミリー・ブロンテを中心に</p> <p>第13回 モダニズムの詩：W・B・イェイツとT・S・エリオット</p> <p>第14回 モダニズムの小説：ジェイムズ・ジョイス、ヴァージニア・ウルフ</p> <p>第15回 第二次大戦後の文学</p>
授業概要	・イギリス文学の歴史を、時代毎に代表的な作家のテキスト（詩、演劇、小説）の一部を読みながら概観します。英語表現に留意することは勿論ですが、文学テキストだけでなく、映画や絵画等の多様な文化表象を手がかりに、歴史と文学のダイナミズムを捉えてみたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の巻末にあるイギリス文学史概説を読んでおくこと。</li> <li>・できるだけ教科書にある英語の原文に挑戦すること。</li> </ul>
テキスト	清宮倫子著『よくわかるイギリスの文学ーThe Poetry and Prose of British Literature』（南雲堂）（ISBN:9784523177098）2200円＋税  大学内の購買部で購入することができます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回リアクション・ペーパーに感想や質問を書いてもらい、次の授業で受講者の関心に応えることで、双方向的な授業を目指します。</li> <li>・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「イギリス文学史」に参加してください。</li> <li>・質問はリアクション・ペーパーでも対応しますが、個別に質問したいときはTeamsもしくはkobayashi-a@yone.ac.jpまで問い合わせてください。</li> <li>・毎回参考図書を紹介し、積極的に図書館を活用してください。</li> </ul>
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
渡邊 真由美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>アメリカ合衆国における文学の成立と発展を歴史的に学び、英語で書かれた文学表現の理解を深め、アメリカ合衆国の文化について理解することで中学校及び高等学校における外国語の授業に生かすことができるようにする。</p> <p>1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。  2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の文化について理解している。  3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方、評価方法の説明。アメリカの地理的特質について</p> <p>第2回 植民地時代の文学および独立革命期の文学 説教文学とベンジャミン・フランクリン 政治的パンフレット、フィリップ・フレノーなど</p> <p>第3回 アメリカン・ルネサンス ラルフ・ウォルド・エマソン、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、ハーマン・メルヴィル ウォルト・ホイットマン、</p> <p>第4回 19世紀女性文学 女性の地位向上運動の始まり マーガレット・フルー、ストウ夫人、エミリー・ディキンソン</p> <p>第5回 南北戦争の展開と西部開拓 南北戦争の概観、西部開拓 マーク・トウェインの西部文学</p> <p>第6回 リアリズムの登場とその発展 ヘンリー・ジェイムズとウィリアム・ディーン・ハウエルズ</p> <p>第7回 自然主義文学の登場 大資本家の登場の社会進化論 マックレーカーの登場 フランク・ノリス、スティューヴン・クレイン、アップトン・シンクレア、セオドア・ドライサー</p> <p>第8回 地域主義文学と女性作家 セアラ・オウン・ジュエット、ウィラ・キャザー シカゴ・ルネサンス</p> <p>第9回 「失われた世代」 第一世界大戦の影響とジャズ・エイジ スコット・フィッツジェラルド、アーネスト・ヘミングウェイ、ウィリアム・フォークナー</p> <p>第10回 大恐慌時代の文学 プロパガンダ文学と連邦美術計画</p> <p>第11回 南部文学 フォークナー、ジェイムズ・キャブル、トルーマン・カポーティ</p> <p>第12回 50年代とビート・ジェネレーション J.D. サリンジャーとジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ</p> <p>第13回 ポスト・モダンの文学 ウラジミール・ナボコフ、ラルフ・エリソン、ソール・ベロー、トマス・ピンチオン、カート・ヴォネガット</p> <p>第14回 マイノリティの文学 ユダヤ系・アジア系・ネイティブ・アメリカンの文学</p> <p>第15回 現代の文学 何をどのように描こうとするのか、現代文学のテーマを考える</p>
授業概要	<p>アメリカ文学の成立期から現代までの展開を概観する。アメリカ文学をアメリカ合衆国の歴史的背景と関連付け、白人男性によって書かれたものだけでなく、女性やもと黒人奴隷、インディアンなどによって書かれた文学作品からアメリカ合衆国における多様性を学ぶ。また、適宜、配布予定の著名な文学作品の抜粋を読み、英語表現を学ぶ。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中に紹介した本をできる限り翻訳でもよいので読むこと。
テキスト	授業内で資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>文学の歴史だけでなく、アメリカ社会や文化の一現象としての文学、という視点をもって授業に臨んでください。授業のなかで紹介した作品のうち一冊でもよいので、実際に読んで、アメリカ文学が内包している問題を考えてみてください。</p>
評価方法	毎回、小レポートを提出してもらいます（出席の代わりとなるもの）。全授業回数の3分の2回以上の出席を

	求めます。 成績評価は、この小レポートで行います。(100%) 遠隔授業に切り替わった場合、teamsを利用して授業を行います。
参考文献	亀井俊介『アメリカ文学史』(全3巻)南雲堂、 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』(入門編)研究社
備考	teams等を活用して毎回のレポートを提出してもらいます。遠隔授業に切り替わった場合、授業内容・方法・試験について適宜変更する。その場合の指示はteamsを通して行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 三つの文学ジャンル（詩、演劇、小説）を読むことを通して文学テキストを多様なコンテキストから解釈する方法を学び、イギリスの思想、歴史、文化についての基本的な理解を深める。</p> <p>2. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。</p> <p>3. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。</p> <p>4. 代表的なイギリス文学について理解している。</p>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス：「解釈」とは何か</p> <p>第2回 詩①—BlakeとWordsworth：ロマン主義の詩を読む</p> <p>第3回 詩②—Blakeの‘The Chimney Sweeper’を読む</p> <p>第4回 詩③—詩と絵画について</p> <p>第5回 詩④—ShakespeareのSonnetを読む</p> <p>第6回 演劇①—演劇とは何か</p> <p>第7回 演劇②—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：物語の構造</p> <p>第8回 演劇③—映画『ハムレット』の鑑賞と分析：独白の効果</p> <p>第9回 演劇④—『ハムレット』における「理性」と「情熱」</p> <p>第10回 演劇⑤—『ハムレット』における「生きるべきか、死ぬべきか」の意味</p> <p>第11回 『ピーター・パンとウェンディ』を読む①—児童文学とは何か</p> <p>第12回 『ピーター・パンとウェンディ』を読む②—物語の構造</p> <p>第13回 『ピーター・パンとウェンディ』を読む③—ジェンダー批評</p> <p>第14回 『ピーター・パンとウェンディ』を読む④—ポストコロニアル批評</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方</p>
授業概要	詩、演劇、小説の中から、それぞれ代表的な作品を取り上げ、文学的修辞法や文化的コンテキストに留意しながら、テキストの一部を読み進めていきます。講読と講義を織り交ぜながら進める予定です。扱う詩人は、Shakespeare、Wordsworth、Blakeです。演劇は、William Shakespeare（1564-1616）のHamlet（1602）を扱い、映画を見ながら分析します。小説は、James Matthew BarrieのPeter and Wendy（1911）を扱います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翻訳でもよいので、授業で扱う文学作品を通読すること。
テキスト	適宜資料を配付します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「イギリス文学作品研究」に参加してください。</li> <li>扱うテキストは事前に配布しますので、予習して授業に臨んで下さい。</li> <li>翻訳でよいので、事前に『ハムレット』と『ピーター・パンとウェンディ』を通読しておくことで理解が深まります。</li> <li>毎回リアクション・ペーパーを配布するので、疑問・質問を書いてください。次週の授業で答えます。</li> <li>受講者の関心・理解に応じて、進度、内容は変更することがあります。</li> </ul>
評価方法	レポート（100%）。授業回数3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	<p>1. 平井 正徳(編)『イギリス名詩選』（岩波文庫）1,012円（ISBN:400322731X）</p> <p>2. ウィリアム・シェイクスピア（河合祥一郎訳）『新訳ハムレット』（角川文庫）528円（ISBN:4042106145）</p>



	3. ジェームズ・M・バリー (大久保寛訳) 『ピーター・パンとウェンディ』 (新潮文庫)605円 (ISBN:410210402X)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
		高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有
授業形態：講義			

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ人女性作家によって書かれた短篇小説を読み、アメリカ文学の中で女性がどう描かれたのかを理解する。アメリカ社会とその文化現象としての文学作品が、そのように関連しているのか、を考える。到達目標としては、1) 英語で文学作品を正確に読むことができる。2) 19世紀末の女性の参政権運動、黒人差別など、社会的変化と文学の関係性を理解できるようにする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法について レポートの書き方の説明</p> <p>資料配布</p> <p>第2回 「デジレの赤ちゃん」(1) ケイト・ショパン、アメリカ南部と黒人問題についての説明 「デジレの赤ちゃん」 pp. 1-2</p> <p>第3回 「デジレの赤ちゃん」 pp. 2-4 (2) 赤ちゃんにまつわるなんらかの不吉さを読み取る。</p> <p>第4回 「デジレの赤ちゃん」(3) pp. 4-6 夫の心情の変化を読み解く。</p> <p>第5回 「デジレの赤ちゃん」(4) pp. 6-8 デジレの選択について</p> <p>第6回 「デジレの赤ちゃん」(5) pp. 9-10 何が起こっていたのか、を考える。 「デジレの赤ちゃん」について討論。</p> <p>第7回 「黄色い壁紙」(1) pp. 1-2 シャーロット・パーキンス・ギルマンについて 当時の女性の置かれていた状況について解説。精神分析とレスト・キュア。</p> <p>第8回 「黄色い壁紙」(2) pp. 3-5 主人公の女性の自己認識について</p> <p>第9回 「黄色い壁紙」(3) pp. 6-8 壁紙は何を意味しているのか？</p> <p>第10回 「黄色い壁紙」(4) pp. 9-11 主人公にとっての「書く」という行為の意味について</p> <p>第11回 「黄色い壁紙」(5) pp. 12-14 夫との関係</p> <p>第12回 「黄色い壁紙」(6) pp. 15-17 主人公の精神的変化を読み取る</p> <p>第13回 「黄色い壁紙」(7) pp. 18-20 主人公の変化について</p> <p>第14回 「黄色い壁紙」(8) pp. 21-23 文体と変化と主人公の変化の関係について</p> <p>第15回 「黄色い壁紙」(9) p. 24 結末のついてどう考えるか、を討論する。</p>
授業概要	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」(1893)、シャーロット・パーキンス・ギルマンの「黄色い壁紙」(1892)を読んでいく。毎回、授業で扱う箇所について、重要な構文や文学的的技巧について解説を行い、物語の内容について理解していく。英文について理解が必要と思われる際には、指名し、訳をつけてもらう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回に読む箇所を指定します。必ず読んでくること。わからない単語があれば調べ、その箇所に描かれている場面がどのような情景なのか、自分はどのように感じるのかを言語化できるようにしておくこと。
テキスト	授業中に配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	授業では、予習をしてきてもらって、それぞれの感想を発表してもらいます。必ず読んできてください。また、適宜指名して訳をつけてもらいます(毎授業、1回程度)。
評価方法	それぞれの作品についてレポートを提出してもらいます(各40%)。授業内での積極的な発言や予習状況(20%)。
参考文献	英和辞典。必ず授業に持参すること。スマートフォンの辞書では、英語の小説を読み切ることは難しい。高校で使用していた辞書で構わない。

備考	状況によっては遠隔授業になりえます。遠隔授業になった場合には、teamsを利用して授業を行い、適宜内容等について変更します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
相田 明子			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	英語圏の児童文学に関する基礎的知識を習得する。そのうえで、文学作品（子供向けの歌や詩、フェアリーテイルや小説等）を読み、理解したことの要点をまとめ、自分の考えを伝えることが出来る。
授業計画	<p>第1回 英語圏の児童文学の成立と発展について概要を学ぶ</p> <p>第2回 Mother Gooseの詩を読むための基本的な知識を学ぶ</p> <p>第3回 Mother Gooseを読む ①数字・アルファベット・曜日・天候</p> <p>第4回 Mother Gooseを読む ②和訳を付けながら文化背景を理解する</p> <p>第5回 Mother Goose ③グループワークと発表（歌・手遊び・読みきかせ）</p> <p>第6回 シャルル・ペロー ①赤ずきんを読む</p> <p>第7回 シャルル・ペロー ②シンデレラを読む</p> <p>第8回 シャルル・ペロー ③フェアリーテイル比較</p> <p>第9回 絵本作家と挿絵画家の登場</p> <p>第10回 Alice in Wonderland ①映像と挿絵</p> <p>第11回 Alice in Wonderland ②作品と文化背景</p> <p>第12回 Alice in Wonderland ③作品中にちりばめられたMother Goose</p> <p>第13回 Mary Poppins ①作品と文化背景（ナニー）</p> <p>第14回 Mary Poppins ②読解</p> <p>第15回 これまでのふりかえりとまとめ</p>
授業概要	児童文学に関する基礎的知識を学修する。そのうえで、英語で書かれた児童文学作品（詩やおとぎばなし、小説）を読んだり歌ったりしながら、理解を深める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指示があった箇所の和訳、読みの練習など
テキスト	授業で配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	グループにわかれて詩や小説を和訳する機会が多くあります。必ず辞書を準備してください。（スマートフォンの辞書機能は不可） また、Mother Gooseは、リズムや韻を意識しながら実際に詩を声に出して読んだり歌ったりします。積極的にアクティビティを楽しむ姿勢がもてられます。
評価方法	①授業内でのアクティビティ30% ②発表20% ③ふりかえりのレポート
参考文献	
備考	辞書を必ず準備してください。授業中のスマートフォンの辞書機能利用は不可とします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
開放（外国語）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。 2. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 英文読解の基礎／小説読解の基礎</p> <p>第3回 Hills Like White Elephant を読む①—語り、焦点化について</p> <p>第4回 Hills Like White Elephantを読む②—代名詞を捉える</p> <p>第5回 Hills Like White Elephant を読む③—コンテキストを捉える</p> <p>第6回 Hills Like White Elephantを読む④—「会話」を捉える</p> <p>第7回 Hills Like White Elephantの解釈について</p> <p>第8回 Araby を読む①—構文を捉える</p> <p>第9回 Araby を読む②—imagery を捉える</p> <p>第10回 Araby を読む③—語りの効果</p> <p>第11回 Araby を読む④—焦点化について</p> <p>第12回 Araby を読む⑤—自由間接話法について</p> <p>第13回 Araby を読む⑥—イギリスとアイルランドについて</p> <p>第14回 Araby の解釈について</p> <p>第15回 まとめ：レポートの書き方について</p>
授業概要	アメリカの作家アーネスト・ヘミングウェイ (Ernest Hemingway, 1899-1961) の短編小説 'Hills Like White Elephants' とアイルランドの作家ジェイムズ・ジョイス (James Joyce, 1882-1941) のDubliners (1914) に所収されている短編小説 'Araby' を精読します。一文ずつ訳読しながら読み進め、重要な英語表現、語りの技法、文化的背景を解説します。また、物語論 (Narratology)をはじめとする文学理論についても適宜紹介します。最終的に、文学テクストの解釈について考察することが目的です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。</li> <li>・授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。</li> </ul>
テキスト	ハンドアウトを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英米文学講読」に参加してください。</li> <li>・辞書を丁寧に引いて予習してください。</li> <li>・図書館とインターネットを積極的に活用してください。</li> <li>・毎回アクション・ペーパーを配布するので、質問を書いてください。次週の授業で答えます。</li> <li>・受講者の関心・理解に応じて、進度は変わることがあります。</li> </ul>
評価方法	授業での発表（20％）レポート（80％）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。</li> <li>2. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。</li> <li>3. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。</li> <li>4. 文化・歴史・修辞技法等に留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 児童文学とは何か</p> <p>第3回 テクスト精読と議論①—「語り」とは何か</p> <p>第4回 テクスト精読と議論②—アダムとイヴの神話</p> <p>第5回 テクスト精読と議論③—アレゴリーについて</p> <p>第6回 テクスト精読と議論④—同時代のコンテクスト</p> <p>第7回 テクスト精読と議論⑤</p> <p>第8回 テクスト精読と議論⑥</p> <p>第9回 テクスト精読と議論⑦</p> <p>第10回 テクスト精読と議論⑧</p> <p>第11回 テクスト精読と議論⑨</p> <p>第12回 『クリスマス・キャロル』におけるクリスマス</p> <p>第13回 テクスト精読と議論⑩</p> <p>第14回 テクスト精読と議論⑪</p> <p>第15回 授業のまとめ—『魔術師のおい』をいかに解釈するか</p>
授業概要	C・S・ルイス (Clive Staples Lewis, 1898-1963) の『ナルニア国物語』七部作の一つである『魔術師のおい』(The Magician's Nephew, 1955) を精読し、分析します。英語を読むことは勿論ですが、イギリスの文化、キリスト教、ギリシア神話等コンテクストに留意しながら、読み進めていきます。毎時間担当者を決め、訳読・要約したうえで、疑問点についてみんなで話し合います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。</li> <li>・ 授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。</li> </ul>
テキスト	C. S. Lewis. The Magician's Nephew. HarperCollins, 2000. 2037円 (ISBN:978-0064409438) ※その時々々のレートにより価格が変動します。 ※各自インターネット等を利用して購入してください。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英米文学基礎演習 I」に参加してください。</li> <li>・ 辞書を丁寧に引いて予習してください。</li> <li>・ 図書館とインターネットを積極的に活用してください。</li> </ul>
評価方法	授業での発表 (40%)、レポート (60%)
参考文献	C・S・ルイス『ナルニア国物語1 魔術師のおい』(光文社古典新訳文庫) 748円 (ISBN:433475340X)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	アメリカ合衆国の文化を歴史的に概観し、そのダイナミックな展開を理解することを目標とします。また、アメリカ合衆国の歴史・政治・経済・文化において、重要とされている英文を読み、英語を正しく読めるようになることを目指します。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方についての説明、アメリカの地理的特徴について</p> <p>第2回 Chapter 1 ポカホンタス神話 pp. 8-11 アメリカの建国神話の意味について学ぶ。 テキストの英文を読む。</p> <p>第3回 映画『ポカホンタス』を見る 史実とされるポカホンタスと映像化されたポカホンタスの相違点を考える。</p> <p>第4回 Chapter 2 丘の上の町 pp. 12-15 アメリカにおける宗教の意味を考える。テキストの英文を読む。</p> <p>第5回 Chapter 3 われら人民 pp. 16-19 アメリカ合衆国成立時の重要文書を読む。アメリカ合衆国の成り立ちについて学ぶ。</p> <p>第6回 Chapter 6 『アンクル・トムの小屋』 pp. 28-31 19世紀の大ベストセラーの一部を読む。奴隷制について考える。英文を読む。</p> <p>第7回 映画 Uncle Tom's Cabinを鑑賞する。 奴隷制の残酷さを考える。</p> <p>第8回 Chapter 8 デパートメント・ストア pp. 36-39 pp. 36-39 描出話法について 英文を読む。</p> <p>第9回 Chapter 9 摩天楼 pp. 40-43 英文を読み、小説中で使用される時間の流れについて学ぶ。</p> <p>第10回 映画『ティファニーで朝食を』を見る</p> <p>第11回 Chapter 10 ヒッピー pp. 44-47 20世紀の対抗文化として知られるヒッピーについて考える。</p> <p>第12回 Chapter 11 フォークソング pp. 48-51 体制への抵抗としてうたわれ続けてきたフォークソングについて理解する。</p> <p>第13回 Chapter 12 健康ブーム pp. 52-55 英文を読む。</p> <p>第14回 Chapter 13 ユートピアを求めて pp. 56-59 性革命について理解する。</p> <p>第15回 ディスカッションと レポートの書き方について</p>
授業概要	アメリカ合衆国の文化を歴史的に概観するテキストを使用して、アメリカ合衆国成立以前からの文化動向を探っていきます。テキストは、それぞれの重要な出来事についての日本語の解説と英文の文書から構成されていて、英文を正しく読むことに力を入れていきます。授業では、日本語の解説部分を担当者を決めて、概略をまとめてもらいます。さらに、英文テキストについては全員で輪読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当になった人は、必ず日本語の解説を読んで概要をまとめてくること。</li> <li>・英文は、全員が読んでくること。</li> </ul>
テキスト	亀井俊介・杉山直子他編著『アメリカの文化を知ろう』南雲堂 2020年。1,700円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	あまりに日常的になっているアメリカ文化を理解し、英語も正しく読めるようになってください。
評価方法	レポート60% 授業への積極的な参加（特別な事情を除いて、授業には毎回出席すること、必ず英文の予習をしてこること、日本語の解説のまとめの報告を3回程度行うこと、等で評価します）40% 5回以上欠席した場合には単位の認定は行いません。
参考文献	亀井俊介・杉山直子他編著『アメリカ文化年表—文化・歴史・政治・経済』南雲堂、2018年。3,500円＋税 英和辞典（スマートフォンの辞書機能は不十分。高校時代に使用した辞書で構わないので、必ず持参すること）
備考	状況によっては遠隔授業になりうる。遠隔授業になった場合には、適宜授業内容、評価方法を変更します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小林 亜希			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な語彙と文法に留意しながら、英語を正確に読む基礎を身につける。</li> <li>2. 文化、歴史、修辞技法などに留意しながら、文学テクストを読む基礎を身につける。</li> <li>3. 文学理論の基礎を学び、多様な解釈の方法を身につける。</li> <li>4. イギリス文学において使用されている様々な英語表現について理解している。</li> <li>5. イギリス文学で描かれている国・地域の文化について理解している。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 『ライオンと魔女』を読むための基礎知識①—シンボルとアレゴリーについて</p> <p>第3回 『ライオンと魔女』を読むための基礎知識②—20世紀の歴史</p> <p>第4回 『ライオンと魔女』を読むための基礎知識③—C・S・ルイスについて</p> <p>第5回 『ライオンと魔女』を読むための基礎知識④—『ナルニア国物語』全体における位置づけ</p> <p>第6回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第1～2章</p> <p>第7回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第3～4章</p> <p>第8回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第5～6章</p> <p>第9回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第7～8章</p> <p>第10回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第9～10章</p> <p>第11回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第11～12章</p> <p>第12回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第13～14章</p> <p>第13回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第15～16章</p> <p>第14回 『ライオンと魔女』テキスト精読と議論：第17章</p> <p>第15回 『ライオンと魔女』：振り返りとまとめ</p> <p>第16回 第一巻及び第三巻～六巻の内容について：各自発表①</p> <p>第17回 第一巻及び第三巻～六巻の内容について：各自発表②</p> <p>第18回 『最後のたたかい』を読むための基礎知識—終末思想について</p> <p>第19回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第1～2章</p> <p>第20回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第3～4章</p> <p>第21回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第5～6章</p> <p>第22回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第7～8章</p> <p>第23回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第9～10章</p> <p>第24回 『最後のたたかい』テキストの精読と議論：第11～12章</p>



	<p>第25回 『最後のたたかい』 テキスト精読と議論：第13～14章</p> <p>第26回 『最後のたたかい』 テキスト精読と議論：第15～16章</p> <p>第27回 イギリス文化における「クリスマスの精神」</p> <p>第28回 『最後のたたかい』 テキストの精読と議論：先行研究の紹介</p> <p>第29回 『最後のたたかい』：振り返りとまとめ</p> <p>第30回 『ナルニア国物語』全体の総括：レポートの書き方について</p>
授業概要	英国の作家C・S・ルイス（Clive Staples Lewis, 1898-1963）のファンタジー小説『ナルニア国物語』を精読します。前期は第二巻『ライオンと魔女』（The Lion, the Witch and the Wardrobe, 1950）を扱い、後期は第七巻『最後のたたかい』（The Last Battle, 1956）を扱います。毎回2章程度を担当者がプレゼンテーション（一部訳読／要約／問題点の指摘）し、テキストの解釈についてみんなで話し合います。また、イギリス文学を深く理解するために、イギリスの文化・歴史についても講義します。最終的に、私たちが物語の「終り」を理解するとはどういうことなのかを考えることが目的です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。</li> <li>・ 指定された範囲に留まらず、テキストを読み進めておくこと。</li> </ul>
テキスト	<p>①C. S. Lewis. The Lion, the Witch and the Wardrobe. Harpercollins, 2000. (ISBN : 978-0064409421) 1526円</p> <p>②C. S. Lewis. The Last Battle. HarperCollins, 2000. (ISBN : 978-0064409414) 1351円</p> <p>※洋書の価格はその時々レートにより変動します。</p> <p>※書籍は各自インターネット等を利用して購入してください。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英米文学演習Ⅰ」に参加してください。</li> <li>・ 受講者との双方向的な授業を展開できるよう心がけたいと思います。</li> <li>・ 予習する際には辞書を引くだけでなく、図書館やインターネットを積極的に活用してください。</li> </ul>
評価方法	レポート（50%）、授業中の発表（50%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	適宜、紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	19世紀末のシカゴ・ニューヨークを舞台として小説『シスター・キャリー』を読む。本作品は、のちのアメリカ社会において、問題とされた多くの点（貧困・誇示的消費・女性の自立など）を先取りするかのように物語のなかに登場してきます。それらを考えていきます。また、英語で書かれた小説を理解できるようにしていきます。		
授業計画	第1回	イントロダクション 授業の進め方、評価方法などについての説明。ドライサーと自然主義文学、19世紀末のアメリカの社会状況について解説をおこなう。	
	第2回	作品講読 参加者全員でChap. 1を輪読し、ドライサーの文体についてなれる。	
	第3回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第4回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第5回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第6回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第7回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第8回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第9回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第10回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第11回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第12回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第13回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第14回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第15回	作品講読 どのようなところが面白かったか、討論する	
	第16回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第17回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第18回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第19回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。	
	第20回	作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点について	

	<p>第21回 てディスカッションする。 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第22回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第23回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第24回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第25回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第26回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第27回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第28回 作品講読 担当者を決め、授業内であらすじを紹介し、注目した点について発表する。全員でその点についてディスカッションする。</p> <p>第29回 作品批評を読む 批評の読み方を学ぶ</p> <p>第30回 テーマ発表 レポートの書き方について。</p>
授業概要	セオドア・ドライサーが1900年に発表した『シスター・キャリー』を抜粋して読んでいきます。毎回、読む箇所を指定します。予習の段階で読んできてもらい、要約を発表してもらいます。解説を行ったうえで、その箇所について興味をもったところ、面白いと思ったところについて話し合いをして、理解を深めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	全員が授業で読む部分を読んで授業に参加し、描かれている内容について自分の考えを明確にできるようにしてこること。また、訳出する箇所を指定するので、必ず訳を作成してこること。夏休みに、小レポート、学年末にはレポートを提出してもらう。
テキスト	Theodore Dreiser, 『Sister Carrie』. (Penguin Modern Classics, 1995) 2, 263円 (23年、1月11日)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	授業への積極的な参加 (授業に毎回参加すること、および作品をきちんと読み、感想を発表できるようにしていること、訳を毎回作ってくること、で評価します) 20% レポート 80% (夏休み小レポート 30% 学年末レポート 50%) 25回以上、授業に出席した場合にのみ単位の認定を行う。
参考文献	英和辞典 (現在使用しているものでかまわない) 参考図書: 村山淳彦訳『シスター・キャリー』 (上・下) (上) 1,320円 (下) 1,386円
備考	遠隔授業に切り替わった場合には、teamsを通して授業を行います。授業内容についても変更する場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語の音声、語彙、統語（文）についての基礎的内容の理解をテーマとします。 2. 英文を的確に読むために構文を理解し、正確な内容把握ができることを目標とします。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 Why Language? (P. 1～3)</p> <p>第3回 Why Language? (P. 4～6)</p> <p>第4回 Why Language? (P. 7～9)</p> <p>第5回 How did speech Begin? (P. 10～12)</p> <p>第6回 How did speech Begin? (P. 13～15)</p> <p>第7回 How did speech Begin? (P. 16～17)</p> <p>第8回 Could We Get Along Without Speech? (P. 18～20)</p> <p>第9回 Could We Get Along Without Speech? (P. 21～23)</p> <p>第10回 Could We Get Along Without Speech? (P. 24～25)</p> <p>第11回 What Is Language Made Up Of? (P. 26～28)</p> <p>第12回 What Is Language Made Up Of? (P. 29～31)</p> <p>第13回 What Is Language Made Up Of? (P. 32～34)</p> <p>第14回 Language Helps Everybody (P. 35～37)</p> <p>第15回 Language Helps Everybody (P. 38～40)</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学をテーマに基本的な内容を平易な英語で書かれたテキストを使いゼミを行います。</li> <li>・英語という言葉客観的に分析するのが英語学です。</li> <li>・具体的には音声学（発音）と形態論（単語）について勉強します。</li> <li>・また、英語の語法や歴史的背景も学びます。</li> <li>・特に英語の「親戚」であるヨーロッパ（インド・ヨーロッパ語族）の言語にも少し触れます。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用、インターネットを利用して事前に調べておくこと。
テキスト	“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円（本体価格）【さわらびで購入できます】
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず教室に辞書を持ってきてください（電子辞書も可）。</li> <li>・英語の構文を理解することを目的として英語を精読します。</li> <li>・YouTubeで、授業で扱った様々な言語に触れる「ヨーロッパ旅行」をします。</li> </ul>
評価方法	授業への参加度（積極性）（50%）、期末レポート課題（50%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	認知言語学の理論的枠組みで、英語と日本語の意味及び文法の様々な側面について理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	空はなぜ青いのか？（認知言語学とはどのような言語学か？）	
	第3回	「ものの見方」と意味	
	第4回	プロトタイプ	
	第5回	抽象化とスキーマ	
	第6回	イメージ・スキーマ	
	第7回	意味のネットワーク	
	第8回	メタファー	
	第9回	メトニミー	
	第10回	概念メタファー	
	第11回	方向性のメタファー：「上下」のメタファー	
	第12回	「色」とことば	
	第13回	構文と意味	
	第14回	ことばのダイナミズム	
	第15回	ことば、文化、普遍性	
授業概要	認知言語学の基本的な考え方は、言語の仕組みには人間の認知（心の働き）が反映しているというものである。この授業では、このような認知言語学的な視点から、英語と日本語の意味や文法の諸相を考察していく。授業は演習形式で行う。毎回、当番の学生がテキストの内容の要約を発表し、それに対して担当教員が解説を加える。最後に内容について全員で議論する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次の授業で学習するテキストの範囲をよく読み、わからない語句を辞（事）典等で調べてくること。そしてテキストの内容に関する自分の意見や疑問点を明確にしておくこと。		
テキスト	谷口一美（著）『学びのエクササイズ 認知言語学』ひつじ書房 1,320円（税込） ISBN: 9784894762824		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語や日本語の具体例を数多く挙げながら、言語と認知の関わりについて深く考えていきたい。授業では、できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、辞（事）典等で調べてもわからない点は遠慮なく質問してほしい。		
評価方法	授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学期末レポート40%		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語音声学、形態論、統語論について知識を深めることをテーマとします。 2. 複雑な英文の構造を把握しその内容を理解する力をつけることを目標とします。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 Language Helps Everybody (P. 35～37)</p> <p>第3回 Language Helps Everybody (P. 38～40)</p> <p>第4回 Language Helps Everybody (P. 40～42)</p> <p>第5回 Language Helps Everybody (P. 43) ・ How Language Grows (P. 44～45)</p> <p>第6回 How Language Grows (P. 46～48)</p> <p>第7回 How Language Grows (P. 49～51)</p> <p>第8回 How Language Grows (P. 52～54)</p> <p>第9回 Languages Come in Families (P. 54～55)</p> <p>第10回 Languages Come in Families (P. 56～58)</p> <p>第11回 Languages Come in Families (P. 59～61)</p> <p>第12回 The Languages of Europe (P. 62～64)</p> <p>第13回 The Languages of Europe (P. 65～67)</p> <p>第14回 Languages of Europe (P. 68～70)</p> <p>第15回 Languages of Europe (P. 71～73)</p> <p>第16回 Languages of Europe (P. 74～76)</p> <p>第17回 Languages of Europe (P. 77～79)</p> <p>第18回 One Language for Everybody? (P. 80～82)</p> <p>第19回 One Language for Everybody? (P. 83～85)</p> <p>第20回 One Language for Everybody (P. 86～88)</p> <p>第21回 One Language for Everybody (P. 89～91)</p> <p>第22回 英語構文理解 (1) 5文型について</p> <p>第23回 英語構文理解 (2) 代名詞の示す語句について</p> <p>第24回 英語構文理解 (3) 関係代名詞と前置詞について</p> <p>第25回 英語構文理解 (4) 並列の表現について</p>

	<p>第26回 英語構文理解（5）文頭の前置詞句について</p> <p>第27回 英語構文理解（6）分詞構文の付帯状況について</p> <p>第28回 英語構文理解（7）相関語句について</p> <p>第29回 英語構文理解（8）倒置について</p> <p>第30回 英語構文理解（9）句から文への変換について</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学基礎演習 I の続きとなります。継続受講者でなくても理解できる内容です。</li> <li>・英語という言語を客観的に分析するのが英語学です。</li> <li>・具体的には音声学（発音）と形態論（単語）について勉強します。</li> <li>・また、英語の語法や歴史的背景も学びます。</li> <li>・特に英語の「親戚」であるヨーロッパ（インド・ヨーロッパ語族）の言語にも少し触れます。</li> <li>・毎回、1人1行ごとの輪読をして、英語を正確に理解する練習をします。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておいてください。</li> </ul>
テキスト	<p>“All About Language” by Mario Pei. (成美堂) 1,200円 (本体価格) 英語学基礎演習 I (北山) と同じテキストです。</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストをよく読み、何がポイントかを把握して簡潔に説明する練習です。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 (50%)、レポート課題 (50%)</li> <li>・出席は「出席管理システム」を利用しますので、使用方法を事前に確認しておいてください。</li> </ul>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語をはじめとする人間の言語の構造、使用、獲得などについて理解を深めること。英語で書かれた専門的な内容の文章が読めること。言語に対する意識や関心を高めること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	Why learn about language? (1) エッセイ前半を読む	
	第3回	Why learn about language? (2) エッセイ後半を読む	
	第4回	You're a linguist? How many languages do you speak? (1) エッセイ前半を読む	
	第5回	You're a linguist? How many languages do you speak? (2) エッセイ後半を読む	
	第6回	Do all languages have the same grammar? (1) エッセイ前半を読む	
	第7回	Do all languages have the same grammar? (2) エッセイ後半を読む	
	第8回	How many languages are there in the world? (1) エッセイ前半を読む	
	第9回	How many languages are there in the world? (2) エッセイ後半を読む	
	第10回	Do animals use language? (1) エッセイ前半を読む	
	第11回	Do animals use language? (2) エッセイ後半を読む	
	第12回	Does our language influence the way we think? (1) エッセイ前半を読む	
	第13回	Does our language influence the way we think? (2) エッセイ後半を読む	
	第14回	Where did English come from? (1) エッセイ前半を読む	
	第15回	Where did English come from? (2) エッセイ後半を読む	
	第16回	Aren't pidgins and creoles just bad English? (1) エッセイ前半を読む	
	第17回	Aren't pidgins and creoles just bad English? (2) エッセイ後半を読む	
	第18回	How do babies learn their mother tongue? (1) エッセイ前半を読む	
	第19回	How do babies learn their mother tongue? (2) エッセイ後半を読む	
	第20回	What does it mean to be bilingual? (1) エッセイ前半を読む	
	第21回	What does it mean to be bilingual? (2) エッセイ後半を読む	
	第22回	What is the connection between language and society? (1) エッセイ前半を読む	
	第23回	What is the connection between language and society? (2) エッセイ後半を読む	
	第24回	What is gendered language? (1) エッセイ前半を読む	
	第25回	What is gendered language? (2) エッセイ後半を読む	



	<p>第26回      What is the language of the United States? (1)      エッセイ前半を読む</p> <p>第27回      What is the language of the United States? (2)      エッセイ後半を読む</p> <p>第28回      How are endangered and sleeping languages being revitalized? (1)      エッセイ前半を読む</p> <p>第29回      How are endangered and sleeping languages being revitalized? (2)      エッセイ後半を読む</p> <p>第30回      全体のまとめ</p>
授業概要	言語に関する英文エッセイを読んでいく。毎回、当番の受講生がエッセイの内容の要約を発表し、担当教員が語学的な面や内容面について解説を加える。最後に内容について全員で議論する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習として、次の授業で学習する範囲の英文をよく読み、わからない語句は辞(事)典等で調べてくること。そしてテキストの内容に関する自分の意見や疑問点を明確にしておくこと。
テキスト	Caroline Myrick and Walt Wolfram (eds.) The 5-Minute Linguist: Bite-Sized Essays on Language and Languages. Third Edition. Equinox Publishing. 2,930円(税込 洋書なので購入する書店やその時々々の為替レートによって変動する)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	できるだけ発言しやすい雰囲気を作りたいと思う。受講生の皆さんは授業の前にテキストをよく読み、辞(事)典等で調べてもわからない点は遠慮なく質問してほしい。
評価方法	授業への参加度30%、テキストの要約発表の充実度30%、学年末レポート40%
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
開放(教養)	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	主に認知言語学、社会言語学の視点から、英語および言語一般の特徴（特に意味とコミュニケーションの側面）を理解すること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	人間のことばと動物のコミュニケーション	
	第3回	英語学の歴史と対照研究（1） 言語学と英語学	
	第4回	英語学の歴史と対照研究（2） 開放系言語学と生成文法	
	第5回	カテゴリー化（1） 古典的カテゴリー論	
	第6回	カテゴリー化（2） プロトタイプ理論	
	第7回	事態把握 一状況の捉え方と言語表現一（1） 事態把握と言語表現	
	第8回	事態把握 一状況の捉え方と言語表現一（2） 日本語と英語の事態把握の違い	
	第9回	メタファー・メトニミー・シネクドキー（1） 概念メタファー	
	第10回	メタファー・メトニミー・シネクドキー（2） メトニミーとシネクドキー	
	第11回	バリエーション 一イギリス英語、アメリカ英語、そして世界の諸英語一（1） イギリス英語とアメリカ英語	
	第12回	バリエーション 一イギリス英語、アメリカ英語、そして世界の諸英語一（2） World Englishes	
	第13回	状況に応じた言語変種の選択 一なぜことばを切り替えるのか一（1） 多言語社会における言語選択	
	第14回	状況に応じた言語変種の選択 一なぜことばを切り替えるのか一（2） コード・スイッチングをする理由	
	第15回	全体のまとめ	
授業概要	講義形式で英語および人間の言語一般の特徴について解説する。言語学の分野としては、主に意味論、認知言語学、社会言語学を扱う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次の授業で学習するテキストの範囲をよく読むこと。復習として、授業で配布された資料をよく読み、学習した内容の理解に努めること。		
テキスト	多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇（著）『実例で学ぶ英語学入門—異文化コミュニケーションのための日英対照研究—』朝倉書店 3,190円（税込） ISBN: 978-4-254-51072-0		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生が英語学や言語学に対する興味を持つことができるように、多くの具体例を用いて分かりやすい解説を心がけたい。わからない点は遠慮なく質問してほしい。この授業の他に後期開講の英語学入門Ⅱを受講することによって、英語の歴史、意味、文法、コミュニケーション全般について学ぶことができるので、併せて受講することをお勧めする。（どちらを先に受講してもよいが、できるだけ英語学入門Ⅰを先に受講してほしい。）		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
松井 真人			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	主に認知言語学、社会言語学、語用論の視点から、英語および言語一般の特徴（特に歴史、意味、コミュニケーションの側面）を理解すること。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 英語の歴史（1） 英語の系統と古英語</p> <p>第3回 英語の歴史（2） 中英語と近代英語</p> <p>第4回 文法化（1） 文法化とは何か</p> <p>第5回 文法化（2） 英語と日本語における文法化の事例</p> <p>第6回 構文—意味を伝える言語形式—（1） 構文と意味</p> <p>第7回 構文—意味を伝える言語形式—（2） 形式が異なれば意味も異なる。形式が同じなら意味も同じ。</p> <p>第8回 ポライトネス（1） 協調の原理と会話の公理</p> <p>第9回 ポライトネス（2） ブラウンとレビンソンのポライトネス理論</p> <p>第10回 言語とコミュニケーション（1） 文化とコミュニケーションスタイル</p> <p>第11回 言語とコミュニケーション（2） 高コンテクスト文化と低コンテクスト文化</p> <p>第12回 メンタルコーパス—母語話者がもつ言語知識—（1） 用法基盤モデル</p> <p>第13回 メンタルコーパス—母語話者がもつ言語知識—（2） 英語らしい自然な言い回し</p> <p>第14回 イメージ・スキーマと意味拡張（1） イメージ・スキーマと言葉の意味</p> <p>第15回 イメージ・スキーマと意味拡張（2） イメージ・スキーマとoverの意味拡張</p>
授業概要	講義形式で英語および人間の言語一般の特徴について解説する。言語学の分野としては、主に英語史、意味論、認知言語学、社会言語学、語用論を扱う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習として、次の授業で学習するテキストの範囲をよく読むこと。復習として、授業で配布された資料をよく読み、学習した内容の理解に努めること。
テキスト	多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇（著）『実例で学ぶ英語学入門—異文化コミュニケーションのための日英対照研究—』朝倉書店 3,190（税込） ISBN: 978-4-254-51072-0
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生が英語学や言語学に対する興味を持つことができるように、多くの具体例を用いて分かりやすい解説を心がけたい。わからない点は遠慮なく質問してほしい。この授業の他に前期開講の英語学入門Ⅰを受講することによって、英語の歴史、意味、文法、コミュニケーション全般について学ぶことができるので、併せて受講することをお勧めする。（どちらを先に受講してもよいが、できるだけ英語学入門Ⅰを先に受講してほしい。）
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%
参考文献	授業中に適宜紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
北山 長貴			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語音声学について理解を深めること。 2. 英語の形態論、社会言語学、言語習得理論について基本的な概念を理解すること。
授業計画	<p>第1回 言語学と英語学について</p> <p>第2回 英語音声学：英語の母音について</p> <p>第3回 英語音声学：英語の子音について</p> <p>第4回 英語音声学：音節と強勢、イントネーションについて</p> <p>第5回 英語音声学：音素について</p> <p>第6回 英語音声学：同化について</p> <p>第7回 形態論：「単語ができる仕組み」（第10章）</p> <p>第8回 形態論：英語の接辞（接頭辞と接尾辞）について</p> <p>第9回 英語の語源について</p> <p>第10回 形態論：語形成について</p> <p>第11回 社会言語学：「ことばと社会」（第23章）</p> <p>第12回 社会言語学：英語の変種について</p> <p>第13回 社会言語学：ピジンとクレオールについて</p> <p>第14回 言語習得：「日本の英語教育と教授法」（第25章）</p> <p>第15回 言語習得：第一言語習得について</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語音声学、形態論、社会言語学、言語習得を概論します。</li> <li>英語音声学は英語の音声のしくみである母音と子音の体系を踏まえ音の変化等も概論します。</li> <li>形態論、社会言語学、言語習得理論については基本的な内容を概論します。</li> <li>授業前に授業計画に記載してあるテキストの該当する章を必ず読んでおいてください。</li> <li>学習内容を深めるためプリントを使い応用練習をします。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>翌週の学習内容の範囲に該当するテキストのページを指定しますので、その該当箇所を予め読み、理解しておいてください。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>長谷川瑞穂 編『はじめての英語学』（研究社）2,500（＋税） 【購買部のさわりびで購入できます】</li> </ul>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語学を今後も研究する学生は英語学入門ⅠとⅡを受講することが望ましい。</li> <li>教職を希望する学生は1年生で受講することが望ましい。</li> </ul>
評価方法	授業への参加度（積極性）（50%）、試験（50%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語学を研究するために必要な基本的分野を理解することをテーマとします。 2. 多くの英文を一度に読み、専門的な英文内容を的確に把握できることを目標とします。
授業計画	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 2章 Semantic Properties</p> <p>第3回 3章 Ambiguity</p> <p>第4回 4章 Metaphor and Poem</p> <p>第5回 5章 Semantic Change</p> <p>第6回 6章 Stylistics</p> <p>第7回 7章 Speech and Writing</p> <p>第8回 8章 Speech Acts and Pragmatics</p> <p>第9回 9章 Aspects of Dialect</p> <p>第10回 10章 Language and Sexism</p> <p>第11回 11章 New Word Formation</p> <p>第12回 12章 Child Language Acquisition</p> <p>第13回 13章 Animals' Language Capacity</p> <p>第14回 1章 What Is Language? (P. 6～10)</p> <p>第15回 1章 What Is Language? (P. 11～15)</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語学を今後も研究したい学生向けの授業です。</li> <li>英語で書かれたテキストを精読して英語学の基本事項を学びます。</li> <li>1回の授業で1ユニットを輪読します。</li> <li>プリント等を使い内容理解を深めるようにします。</li> </ul>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	・専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくてください。
テキスト	“Language as Human Essence” by Victoria A. Fromkin 三修社（1300円）（本体価格） 【さわらびで購入できます】
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>予習をしておいての出席が前提の授業です。</li> <li>必ず教室に辞書を持ってきてください。</li> <li>専門的な内容が含まれていますが、なるべく理解しやすいように説明します。</li> </ul>
評価方法	・授業への参加度（積極性）（50%）、レポート提出（50%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 亜希			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。 2. 英米文化を学ぶ上で重要な概念についての理解を深める。 3. 様々な文化表象を手がかりに、英語圏の文化を読み解く方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー「文化」とは何か</p> <p>第2回 英語</p> <p>第3回 キリスト教</p> <p>第4回 民主主義</p> <p>第5回 資本主義／「個人」の誕生</p> <p>第6回 国民国家／植民地主義</p> <p>第7回 ジェンダー／セクシュアリティ</p> <p>第8回 絵画と建築ー英国の風景画と庭</p> <p>第9回 〈人種〉の表象（1）</p> <p>第10回 〈人種〉の表象（2）</p> <p>第11回 音楽ー大衆音楽と公民権運動</p> <p>第12回 映画（1）ケン・ローチ『家族を想うとき』を鑑賞</p> <p>第13回 映画（2）映画にみる「文化」</p> <p>第14回 新自由主義における〈労働〉と〈コミュニケーション〉</p> <p>第15回 まとめーレポートの書き方について</p>
授業概要	前半（第1回～第7回）は、英米文化を読み解くためのキーワード（基本概念）を中心に考察し、後半（第8回～第15回）は、絵画、音楽、建築、映画等の具体的な表象を分析しながら、イギリスとアメリカの文化の構造を読み解いていきます。また、毎回リアクション・ペーパーを利用し、授業の質問に答えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱うキーワード（基本概念）を辞書やインターネットを活用して調べておくこと。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英米文化論」に参加してください。</li> <li>・質問はリアクション・ペーパーでも対応しますが、個別に質問したいときはTeamsもしくはkobayashi-a@yone.ac.jpまで問い合わせてください。</li> <li>・受講生の関心を引くように、身近な事例を取り入れながら講義を進めていきたいと思えます。</li> <li>・扱うキーワードを辞書やインターネットで調べてから授業に臨むと理解が深まります。</li> <li>・受講生の理解・関心に応じて、進度・内容は変わることがあります。</li> </ul>
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：西洋史（21330）

授業コード：21330

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山崎 彰			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. ヨーロッパの複数の国の歴史を学ぶことで、ヨーロッパ史について多面的な関心を深めることができるようになる。 2. 授業で扱った国の個性が長い歴史の経過から形成されたことを理解し、適切に説明することができるようになる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 古代と中世のイタリア</p> <p>第3回 ルネサンスと近代イタリア</p> <p>第4回 中世フランス</p> <p>第5回 近世フランス</p> <p>第6回 フランス革命と近代フランス</p> <p>第7回 ブリテン島諸地域の形成</p> <p>第8回 連合王国の形成</p> <p>第9回 イギリス植民地帝国</p> <p>第10回 スイス盟約者団</p> <p>第11回 近代スイス連邦国家</p> <p>第12回 中世ドイツ</p> <p>第13回 近世ドイツ</p> <p>第14回 現代ドイツ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	ヨーロッパの多様な国家を互いに比較し、それぞれの特徴を明確にする。この特徴が中世、場合によっては古代以来、長い時間をかけて形成してきたことを明らかにし、これによってヨーロッパについてのイメージを豊かにする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃よりヨーロッパ史に関する書物を読み、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。
テキスト	プリント配付
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ヨーロッパに関する本（歴史書に限らず）をできるだけ多く読んでほしい。
評価方法	授業への参加度（40%）、期末の理解度確認調査（60%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
阿部 哲人			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本文化と戦国時代 1、戦国時代に生まれた日本文化について理解する 2、日本文化における戦国時代の意義を理解する 3、米沢にある文化財について理解する
授業計画	<p>第1回 ガイダンス…戦国時代とは</p> <p>第2回 ハンコ文化について（1）…ハンコの起源</p> <p>第3回 ハンコ文化について（2）…日本におけるハンコの歴史</p> <p>第4回 ハンコ文化について（3）…戦国時代に生まれたハンコ</p> <p>第5回 手紙の書き方（1）…国宝「上杉家文書」</p> <p>第6回 手紙の書き方（2）…かたちに示される意味</p> <p>第7回 手紙の書き方（3）…書き方をめぐって</p> <p>第8回 絵画にみる価値観（1）…国宝「上杉本洛中洛外図屏風」</p> <p>第9回 絵画にみる価値観（2）…狩野派の台頭と受容</p> <p>第10回 絵画に見る価値観（3）…人間へ向けられる関心</p> <p>第11回 生活の場（1）…都市の成立</p> <p>第12回 生活の基盤（2）…ムラの成立</p> <p>第13回 うらないと戦国武将（1）…占いの歴史</p> <p>第14回 うらないと戦国武将（2）…占いへの依存</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	米沢にある文化財や身近な出来事などをふまえ、歴史的に遡って文化についてみていきます。
実務経験及び授業の内容	米沢市上杉博物館で学芸員をしています。展覧会の企画などで、戦国時代を扱うことが多く、それをふまえて戦国時代を中心に日本文化について話をしていきます。
時間外学習	博物館の展示を見たり、興味を持った文献などを読んでみて下さい。
テキスト	特にありません。講義では板書します。必要に応じてプリントなどを配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの生活、食事や衣類、すべてが歴史の上に成り立っています。あまり意識ないことと思いますが、それをまず意識してほしいと思います。また、戦国時代のみならず、歴史上に生きた人々の意識、思いなどを感し、寄り添ってみてほしいと思います。そこから自分とくらべてみたりして、人間とは何かということの一端に触れてみてください。
評価方法	期末の論述試験
参考文献	必要に応じて講義で示します。
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
今井 コレット			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	This course will give students the opportunity to share their opinions and experiences. We will read about things that influence our culture and communication but more importantly, you will be expected to contribute to pair and group work.		
授業計画	第1回	Communication strategies	
	第2回	Culture	
	第3回	Nonverbal Communication	
	第4回	Communicating Clearly	
	第5回	Culture and Values	
	第6回	Culture and Perception	
	第7回	Diversity	
	第8回	Stereotypes	
	第9回	Culture Shock	
	第10回	Culture and Change	
	第11回	Talking about Japan	
	第12回	Becoming a Global Person	
	第13回	Human Psychology and Communication	
	第14回	Cultural Accommodation in Intercultural Communication	
	第15回	Intercultural Competence for the Future	
授業概要	There will be reading sections in each class which will be done in pairs or groups. This will be followed by discussions or other communication exercises. Your English skills will improve as you contribute but an openness to each others' ideas will help you discover more about your classmates and yourself.		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Reports		
テキスト	Speaking of Intercultural Communication 異文化理解の英語コミュニケーション Peter Vincent Nan'un-do ISBN 9784523178408		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Before you begin this course, you will have certain ideas about your own culture and even other cultures. I hope you will enjoy learning about what shapes our cultures and that you will feel you have a slightly deeper understanding of your own identity and that of others.		
評価方法	Class participation (50%)and reports (50%)will be taken into account to grade this course.		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
阿部 隆夫			
開放(教養)	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。		
授業計画	第1回	異文化間コミュニケーション論の誕生 また、並行して隔週で、副教材の事例1から事例15までを考察する。 『納得の異文化間コミュニケーション』（以下『異文化』と略記）事例1	
	第2回	異文化間コミュニケーション論の可能性 『沈黙の言葉』2&5章 異文化、事例2	
	第3回	基本概念の説明と応用（文化とは） 異文化、事例3	
	第4回	基本概念の説明と応用（常識とは） 異文化、事例4	
	第5回	基本概念の説明と応用（コミュニケーションの時間とは） 『沈黙の言葉』1&9章 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（以下、『ケース』と略記）1章	
	第6回	基本概念の説明と応用（コミュニケーション空間とは） 『沈黙の言葉』10章 異文化、事例5	
	第7回	基本概念の説明と応用（学習の形態差とは） 『沈黙の言葉』4章 『ケース』2章	
	第8回	基本概念の説明と応用（認識の形態差とは） 異文化、事例7	
	第9回	基本概念の説明と応用（コミュニケーションの形態とは） 『ケース』3&4章	
	第10回	近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化交流の歴史 異文化、事例8	
	第11回	近代ヨーロッパ人の航海活動に伴う異文化・異民族間問題 『ケース』5&6章	
	第12回	北アメリカの毛皮交易をめぐるヨーロッパ系住民と先住民の現代までの交流 異文化、事例9	
	第13回	カナダでの対先住民政策の比較例として日本社会のアイヌ民族待遇を考える 『ケース』7&8章	
	第14回	アフリカの民族紛争に関わる異文化間の問題 異文化、事例10	
	第15回	国際化する日本社会での異文化間コミュニケーションの事例 『ケース』9章	
授業概要	異文化間コミュニケーション論の誕生から現在まで発達までの理論と応用例の説明、身近な異文化間の事例や世界で起こっている異文化間問題に対するこの理論の応用		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	隔週で授業内容に則した課題が出されるので専用の用紙に記載の上提出してほしい。		
テキスト	エドワード・T・ホール著「沈黙のことば」（南雲堂1966年）、阿部隆夫・他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2020年）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基礎理論を着実に理解させた後の期間後半になってから事例研究を行う。各自で関心があるレポートの題目を平素から搜して用意することを期待する。		
評価方法	提出課題（40％）と試験（60％）		
参考文献	『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣2007年）		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>欧米の政治・社会について多角的視点から考察し、発表やディスカッションを通して意見の違いを共に認識する。</p> <p>1 欧米の政治・社会について理解し、現代の諸問題と関連させて自身の見解を述べることができる。</p> <p>2 テーマに応じた資料をまとめ、発表を通して自分の意見を分かりやすく伝えることができる。</p> <p>3 他者と自身との見解の相違を認識し、意見や疑問点を他者へ伝えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 レジュメの作り方と資料の共有・管理方法</p> <p>第3回 ベトナム戦争とアメリカ社会（発表）</p> <p>第4回 ベトナム戦争とアメリカ社会（VTRと解説）</p> <p>第5回 ベトナム戦争とアメリカ社会（ディスカッション）</p> <p>第6回 民族紛争と難民問題（発表）</p> <p>第7回 民族紛争と難民問題（VTRと解説）</p> <p>第8回 民族紛争と難民問題（ディスカッション）</p> <p>第9回 冷戦（発表）</p> <p>第10回 冷戦（VTRと解説）</p> <p>第11回 冷戦（ディスカッション）</p> <p>第12回 第二次世界大戦と世界分割（発表）</p> <p>第13回 第二次世界大戦と世界分割（VTRと解説）</p> <p>第14回 第二次世界大戦と世界分割（ディスカッション）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>各国の政治・社会について、イデオロギーや民族紛争を例に歴史的文化的背景を探る。発表者はレジュメを基に報告し、発表者以外は、各々が調べてきた内容を基に意見や質問する。VTRで知識の補完をしながら最後にディスカッションを行う。これを4クール行う。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習 発表者は、図書館資料を用いてレジュメやプレゼン資料を作成し、配布物を準備しておく。その他の者も質疑・討論できるよう図書館などで予備的知識をつけた上で授業に臨むこと。</p> <p>復習 発表者の資料を参考に、図書館等で関連する学術書・資料の探索と熟読を毎回2時間程度行う。</p>
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>発表者に質疑応答ができるよう発表者以外の者も毎回準備を欠かさず、ゼミ生の迷惑になるので発表者は絶対に休まないこと。ゼミ生主体の場として、またインプットとアウトプットを行う場として活用してほしい。</p>
評価方法	レジュメ・資料作成・発表内容50%、事前調査・質疑応答など50%。
参考文献	
備考	<p>発表の際に用いる新聞記事やレジュメは、ゼミ生分の資料を事前に用意しておくこと。図書館での複写に1回10円～20円必要。学生印刷室でゼミ生分、印刷し持参する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。
授業計画	<p>第1回 PFC導入、ハルヤマダ導入、『英語コミ』導入、TOEIC問題集(毎回1ページ) PFC教材紹介、DGDR教材紹介、『英語コミ』教材紹介、主教材PFCと副教材DGDR、『英語コミ』、他TOEICを毎回1ページずつ毎回の時間を三等分し、均等にアてる。 (省略語) DGDR: ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』 PFC: Polite Fictions in Collision 『英語コミ』：ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション</p> <p>第2回 PFC、1章(英語圏の人間対等性)問題考察、『英語コミ』、事例13「家に招待される」</p> <p>第3回 PFC1章音読確認、DGDR ch. 1-1(即ち1章問題1、以下同様)自立と甘え</p> <p>第4回 DGDR Ch. 1-2, 1-3 論ず方法、自己独立性、『英語コミ』事例14「家に招待する」</p> <p>第5回 PFC 2章(親近性)問題考察、『英語コミ』事例15 単純状況コミュニケーション</p> <p>第6回 PFC2章音読、DGDR 2-4 二重否定の禁止</p> <p>第7回 DGDR2-5 neutralな人間関係、『英語コミ』事例16 複雑状況コミュニケーション</p> <p>第8回 PFC 3章(くつろいだ関係)問題考察、『英語コミ』事例17 謝罪の違い</p> <p>第9回 PFC 3章音読、DGDR 3-1 呼称の比較</p> <p>第10回 DGDR 3-2 尊敬語・謙譲語の欠如、『英語コミ』事例18 謝罪の誤解</p> <p>第11回 PFC 4章(独立と共存)問題考察、『英語コミ』事例19 謝罪の転用</p> <p>第12回 PFC 4章音読、DGDR 3-3挨拶の仕組み</p> <p>第13回 DGDR 4-4 作り上げるか、当てはめるかの差、『英語コミ』事例20 名前で呼ぶか関係で呼ぶか</p> <p>第14回 PFC 5章(個と集団の意識差)『英語コミ』事例21 「よろしくお願ひします」の文化</p> <p>第15回 PFC 5章音読</p>
授業概要	異文化間コミュニケーション論・社会言語学の洋書主教材で学ぶ時間、和書副教材で学ぶ時間、社会言語学ワークブックの時間、TOEIC(文法・読解)とTOEFLの練習時間を設ける。異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づき和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるようなコミュニケーターを養成する訓練をする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回出される小課題を専用の用紙に記載して提出してほしい。異文化関連の専門書を二冊以上読んで学期末に書評を提出すること。
テキスト	阿部隆夫、他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』(開拓者2020年)[または、廉価版：タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社、2011)]、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集9』(国際ビジネスコミュニケーション協会2021年)、ハルヤマダ『喋るアメリカ人聴く日本人』(成甲書房 2003年)、Nancy Sakamoto, Polite Fictions in Collision (Kinseido 2004)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	留学希望者は実務的な個別準備指導をする。期末課題としては、各自が言語学や英語などに関連した研究書の書評[3-5ページ]又は口頭発表のどちらかが課せられる。英語論文の添削指導も可能。
評価方法	平常の発表課題(30%)、提出課題(50%)と小試験(20%)

講義科目名称：英語コミュニケーション基礎演習(21382)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Students will improve their English communication skills by listening to songs, watching videos, playing games, and sharing their opinions and relating their experiences.
授業計画	<p>Song Listening and Reaction 1</p> <p>Short Video and Reaction 1</p> <p>Communication through Games 1</p> <p>Song Listening and Reaction 2</p> <p>Short Video and Reaction 2</p> <p>Communication through Games 2</p> <p>Song Listening and Reaction 3</p> <p>Short Video and Reaction 3</p> <p>Communication through Games 3</p> <p>Song Listening and Reaction 4</p> <p>Short Video and Reaction 4</p> <p>Communication through Games 4</p> <p>Song Listening and Reaction 5</p> <p>Short Video and Reaction 5</p> <p>Communication through Games 5</p> <p>Song Listening and Reaction 6</p> <p>Short Video and Reaction 6</p> <p>Communication through Games 6</p> <p>Song Listening and Reaction 7</p> <p>Short Video and Reaction 7</p> <p>Communication through Games 8</p> <p>Song Listening and Reaction 8</p> <p>Short Video and Reaction 8</p> <p>Communication through Games 9</p> <p>Song Listening and Reaction 9</p>

	<p>Short Video and Reaction 9</p> <p>Communication through Games 10</p> <p>Song Listening and Reaction 10</p> <p>Short Video and Reaction 10</p> <p>Ending Presentation</p>
授業概要	In each class, students will do an activity together with the teacher to improve their communication skills.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Students will be asked write their reflections on each week's lesson.
テキスト	There is no textbook for this class. Please bring a dictionary (smartphone as dictionary is ok) and notebook to class.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	50% Attendance and Participation, 50% Written Reports
参考文献	
備考	※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、後期履修登録期間に改めて学務システムからご確認ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
畑田 秀将			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本と欧米の政治経済・法と社会について比較・考察し、発表や討論を通して多角的視点を培う。 1 日本と欧米の政治経済・法律・社会について、時事問題と関連付けて政策や制度を説明することができる。 2 自由や人権に対する各国の政策・制度や個人的思想など背景知識を理解した上で、自身の見解を述べる事ができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	レジュメの作り方と資料の共有・管理方法	
	第3回	テーマの設定	
	第4回	テーマの検討	
	第5回	安楽死と尊厳死	
	第6回	尊厳死法 カリフォルニア州と日本を例に	
	第7回	安楽死導入の是非	
	第8回	リベラルとコンサバ	
	第9回	最高裁判事と権力	
	第10回	家族像の変化	
	第11回	日本の保守とリベラル	
	第12回	アメリカの保守とリベラル	
	第13回	日米の保守とリベラルの比較	
	第14回	テーマの中間発表 1	
	第15回	前半の振り返り	
	第16回	テーマの中間発表 2	
	第17回	臓器移植制度	
	第18回	臓器移植の賛否	
	第19回	制度とマイノリティー	
	第20回	テーマの中間発表 3	
	第21回	国家とイデオロギー	
	第22回	イデオロギーと政党	
	第23回	テーマの中間発表 4	
	第24回	民主主義と文化	

	<p>第25回 グローカリゼーション</p> <p>第26回 テーマの中間発表 5</p> <p>第27回 政治・法からみた多様性（議論）</p> <p>第28回 テーマの発表会 1</p> <p>第29回 テーマの発表会 2</p> <p>第30回 1年を通して（振り返り）</p>
授業概要	<p>現代の政治・社会問題についてゼミ生主体で議論し考察します。特に世論を二分化・対立している問題（例としてイデオロギー、安楽死、死刑制度など）をメインテーマに設定し、各国の政治・社会文化の比較を通して事象を多面的に捉えてもらいます。</p> <p>発表担当者がテーマに則ってレジュメを作り発表し、質疑応答も含めてゼミ生主体で議論します。前期は指定した図書を輪読し、後期は、各自、興味関心あるテーマを選びます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>予習 新聞のスクラップを毎週します。全員がテキストを熟読し、発表担当者はレジュメやプレゼン資料を作成する。</p> <p>復習 テキストや発表者の資料を参考に、図書館で関連する学術書・関連資料の探索や熟読を行うこと。</p>
テキスト	<p>山口真由『リベラルという病』新潮社、2017年。杉田敦『政治的思考』岩波書店、2013年。渡辺靖『&lt;文化&gt;を捉え直す』岩波書店、2015年。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>日常的に新聞やテレビニュースを見聞きし、批判的に思考する習慣を身に付けておいてください。図書や新聞・雑誌、ネットワーク情報資源を活用し、発表や議論を通して多角的視点から物事を捉えることのできる情報リテラシーを鍛えましょう。</p>
評価方法	レジュメ・資料作成・発表50%、事前準備・質疑応答など50%
参考文献	
備考	<p>発表の際に用いる新聞記事やレジュメは、各自、ゼミ生分のコピーを事前に用意しておくこと。図書館での新聞記事の複写に1回10円～20円ほど、および印刷機ではゼミ生分の用紙を準備のこと。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。
授業計画	<p>第1回 PFC 4章音読 You and I are Independent、そのほかTOEIC問題集10問ずつ（以下毎回同様）</p> <p>第2回 PFC5章People as Individuals, Mistakes p. 15</p> <p>第3回 PFC5章音読, 英語コミ No. 21 「どうぞよろしくお願いします」</p> <p>第4回 DGDR ch. 4-3, 4-4（即ち第4章問題3、問題4、以下同様）Business is Business, Business is Family; Mistakes p. 16</p> <p>第5回 DGDR ch. 4-5 Individual Choice, Group Ensemble</p> <p>第6回 PFC6章 Being Original; Mistakes p. 17</p> <p>第7回 PFC6章音読, 英語コミ No. 22 「何歳ですか？お子さんは？（1）」</p> <p>第8回 DGDR ch. 4-6, 5-1 Team Stars, Borrowed Individuals; Mistakes p. 18</p> <p>第9回 DGDR ch. 5-2, 5-3 Talk about Talk / Silent Shifters</p> <p>第10回 PFC7章 Questions, Questions!; Mistakes p. 19</p> <p>第11回 PFC7章音読, 英語コミ No. 23 「何歳ですか？お子さんは？（2）」</p> <p>第12回 DGDR ch. 6-4, 6-5 It's Not Our Talk, It's an Example /You Don't Know What You're Talking About; Mistakes p. 20</p> <p>第13回 DGDR ch. 7-1, 7-2 The Rhythm of Talk</p> <p>第14回 PFC8章 Answer to the _Point!; Mistakes p. 21</p> <p>第15回 PFC8章音読, 英語コミ No. 24 「子供をしかる」</p> <p>第16回 DGDR ch. 7-3 Talking Turns; The Ball Machine of Conversation; Mistakes p. 22</p> <p>第17回 DGDR ch. 8-4, 8-5 The Truths about Teasing, Praising and Repeating</p> <p>第18回 PFC9章Conversational Ballgames, 個別研究口頭発表1</p> <p>第19回 PFC9章音読, 英語コミ No. 25 「飲食の誘いを断る」, 個別研究口頭発表2</p> <p>第20回 DGDR ch. 8-6 Repeated and Parallel Truths, 個別研究口頭発表3</p> <p>第21回 DGDR ch. 9-1, 9-2 Role Models: Working Man, Nurturing Mother, 個別研究口頭発表4</p> <p>第22回 PFC10章Don't Apologize!</p> <p>第23回 PFC10章音読, 英語コミ No. 26 「飲食に誘う」</p> <p>第24回 DGDR ch. 9-3 Independent American Decision Makers, 個別研究口頭発表5</p>

	<p>第25回 DGDR ch. 10-4, 10-5 Becoming American, Staying Japanese, 個別研究口頭発表6</p> <p>第26回 PFC11章Nobody Told Me!</p> <p>第27回 PFC11章音読, 英語コミ No. 27「がんばって、ごくろうさま」</p> <p>第28回 DGDR ch. 10-6 Mirrors, Mirrors, 英語コミ No. 28「苦情を言う」</p> <p>第29回 PFCまとめ, 英語コミ No. 29「どれでも結構です」</p> <p>第30回 DGDRまとめ, 英語コミ No. 30「客に挨拶をする」</p>
授業概要	<p>異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づいて、和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるような真のコミュニケーターを養成する訓練をする。主教材DGDR、副教材、他TOEIC問題集を毎回1ページずつ毎回の時間を下記内容で三等分し、均等にアてる。 (省略語) DGDR: Different Games, Different Rules PFC: Polite Fictions in Collision 『英語コミ』:ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション Mistakes:Takao Abe, Common Mistakes in English</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回小課題が出されるので専用の用紙に記載して提出してほしい。異文化に関して各自で題目を決めて平時から自習し5ページ以内のレポートを制作するか、パワーポイントでプレゼンテーションを行うこと。</p>
テキスト	<p>阿部隆夫、他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓者2020年）[または、廉価版：タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2011）]、『TOEIC L &amp; R公式問題集8』（IIBC 2021年）、Haru Yamada, Different Games, Different Rules (Oxford UP, 1997)、Takao Abe, Common Mistakes in English (非出版本)</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	<p>平常の発表課題 (60%)、提出課題 (40%)</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語コミュニケーション演習(21392)

授業コード：

英文科目名称：Seminar: English Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Students will improve their English communication skills by listening to songs, watching videos, playing games, and sharing their opinions and relating their experiences.
授業計画	<p>Song Listening and Reaction 1</p> <p>Short Video and Reaction 1</p> <p>Communication through Games 1</p> <p>Song Listening and Reaction 2</p> <p>Short Video and Reaction 2</p> <p>Communication through Games 2</p> <p>Song Listening and Reaction 3</p> <p>Short Video and Reaction 3</p> <p>Communication through Games 3</p> <p>Song Listening and Reaction 4</p> <p>Short Video and Reaction 4</p> <p>Communication through Games 4</p> <p>Song Listening and Reaction 5</p> <p>Short Video and Reaction 5</p> <p>Communication through Games 5</p> <p>Song Listening and Reaction 6</p> <p>Short Video and Reaction 6</p> <p>Communication through Games 6</p> <p>Song Listening and Reaction 7</p> <p>Short Video and Reaction 7</p> <p>Communication through Games 8</p> <p>Song Listening and Reaction 8</p> <p>Short Video and Reaction 8</p> <p>Communication through Games 9</p> <p>Song Listening and Reaction 9</p>

	<p>Short Video and Reaction 9</p> <p>Communication through Games 10</p> <p>Song Listening and Reaction 10</p> <p>Short Video and Reaction 10</p> <p>Ending Presentation</p>
授業概要	In each class, students will do an activity together with the teacher to improve their communication skills.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	Students will be asked write their reflections on each week's lesson.
テキスト	There is no textbook for this class. Please bring a dictionary (smartphone as dictionary is ok) and notebook to class.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	This is the first time this course will be offered and there will be some trial and error!
評価方法	50% Attendance and Participation, 50% Written Reports
参考文献	
備考	